ISSN 0915－1613

年　報　6

平成元年度

1990. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年報 6

平成元年度

1990. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、８年を経過いたしました。この間、1988年度までに当センターが発掘調査を行ってきました遺跡は、1982年度10遺跡、83年度７遺跡、84年度８遺跡、85年度９遺跡、86年度８遺跡、87年度16遺跡、88年度13遺跡にのぼっております。また、発掘調査報告書もすでに50冊を刊行いたしましたが、これらの内容は先土器時代から中・近世までと幅広く、これまで本県では未解明であった部分の解明に役立つものと信じております。また、遺跡調査発表会の開催や収蔵資料の貸し出しなど県内外に、本県の歴史をひろく理解していただくための啓蒙普及活動も行って参りました。

本書は1989年度に当埋蔵文化財センターが行った発掘調査および試掘・分布調査の概要と遺跡調査発表会等の事業概要を報告するものであります。今年度は11遺跡の発掘調査と３事業にかかわる試掘調査を行いました。とくに八代町の身洗沢遺跡では、待望久しい弥生時代の水田が確認され、さまざまな植物性遺物、たとえば未炭化の種子類や木製農具などが良好な状態で出土いたしました。これまで県内では低湿地の調査例があまり無かったため、低湿地での遺跡の存在は勿論、このような良好な状態での遺物の出土も確認されていなかった訳であります。身洗沢遺跡の調査成果は今後の遺跡調査の方向性を左右する重要な発見と言えるものであります。また、県内の市町村が実施いたしました発掘調査も大きな成果を上げております。

現在、県内では中部横断自動車道やリニアモーターカー新実験線の建設が決まり、着工に先立つ大規模な事前発掘調査が予定されております。また、都心の地価高騰に伴い、地方への企業進出が一段と激しくなるなか、県内でも開発に拍車が掛かっております。発掘調査も当然のことながら年々増え続け、逆に遺跡は確実に減り続けております。遺跡は先祖の遺産であり、私達のかけがえのない財産であります。本書が多くの方々に利用され、遺跡の理解と保存にいささかでも寄与できれば幸甚であります。

1990年３月

山梨県埋蔵文化財センター

所長　**磯　貝　正　義**

目　次

Ⅰ　1989年度の事業概要

1　発掘調査……1

2　整理事業……1

3　発掘調査報告書……1

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載……2

5　遺跡調査発表会……4

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要

1　宇津谷・諏訪神社窯跡……6

2　川田瓦窯跡……8

3　長田口遺跡……10

4　甲ッ原遺跡……12

5　塩川遺跡……14

6　獅子之前遺跡……16

7　大輪寺東遺跡……18

8　中込遺跡……20

9　東山南（B）遺跡……22

10　身洗沢遺跡……24

11　湯沢遺跡……26

12　甲西バイパス地内試掘調査……28

13　風土記の丘キャンプ場予定地試掘調査……30

14　八ヶ岳東南麓遺跡ほか分布調査……31

Ⅲ　県内の概況

1　調査の件数と状況……32

2　県内の主な発掘調査……33

1989年度発掘調査一覧……35

例　言

1．本書は、1989年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2．本書の編集から刊行までの作業は、年報編集担当長沢宏昌、高野玄明が行った。
3．今年度の発掘調査一覧および資料の掲載は2月末日現在で集計したものである。
4．第II章に使用した遺跡位置図は1／25,000地形図である。

職　員　組　織

職員組織は以下のとおりである。今年から課制がしかれ、総務課と調査研究課が設置された。

所　　長　　磯　貝　正　義
次　　長　　平　賀　　徹
総務課課長　　平　賀　　徹
調査研究課課長　森　　和　敏

総務担当

副主幹　　長　田　保　守
主　　事　　三　井　徹　也
業務員　　保　坂　　貢
業務員　　井　上　脩　二
（4．1～7．31）
業務員　　芹　沢　義　宏
（8．1～）

調査研究第1担当

主査・文化財主事　末　木　　健
副主査・文化財主事　小　林　広　和
主任・文化財主事　出　月　洋　文
主任・文化財主事　長　沢　宏　昌
文化財主事　中　山　誠　二
文化財主事　保　坂　裕　史
非常勤嘱託　今　福　利　恵
臨時職員　山　本　茂　樹
非常勤嘱託　森　原　明　廣

調査研究第2担当

副主査・文化財主事　新　津　　健
主任・文化財主事　小　野　正　文
（釈迦堂遺跡博物館組合へ派遣）
主任・文化財主事　八　巻　與志夫
文化財主事　保　坂　康　夫
文化財主事　丸　山　哲　也
文化財主事　浅　利　　司
臨時職員　高　野　玄　明
臨時職員　吉　岡　弘　樹
非常勤嘱託　保　坂　和　博

I　1989年度の事業概要

1　発掘調査

今年度は11遺跡の発掘調査と3事業にかかわる試掘調査を行い、その総面積は130,000㎡に及ぶ。調査の原因は道路建設8、ダム建設1、公園造成2、植栽工事1、学術調査2となっている。調査は5月初旬から12月下旬まで行われ、12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要については II章で述べることとする。

2　整理事業

今年度は以下の整理を行った。

No.	遺　跡　名	発掘年度	事　業　名
1	大輪寺東遺跡	1989	旭バイパス建設
2	獅子之前遺跡	1989	塩山バイパス建設
3	塩川遺跡	1989	塩川ダム建設
4	身洗沢遺跡	1989	県道石和石橋線建設
5	湯沢遺跡	1989	峡北中核工業団地植栽工事
6	中込遺跡	1989	八ヶ岳広域農道建設
7	長田口遺跡	1989	富士川西部広域農道建設
8	甲ツ原遺跡	1989	県道八ヶ岳公園線建設
9	東山南遺跡	1989	甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園
10	宇津谷諏訪神社窯跡	1989	生産遺跡詳細分布調査
11	川田瓦窯跡	1989	生産遺跡詳細分布調査
12	甲西バイパス地域内試掘調査	1989	甲西バイパス建設(中部横断自動車道になる)
13	キャンプ場予定地試掘調査	1989	甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園
14	八ヶ岳東南麓遺跡他分布調査	1989	八ヶ岳広域農道建設
15	丘の公園第5遺跡	1988	丘の公園
16	上の平遺跡	1979～1981	甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園

3　発掘調査報告書

今年度は以下の報告書を刊行した。

No.	報　告　書　名
第51集	山梨県生産遺跡分布調査報告書
第52集	中込遺跡
第53集	大輪寺東遺跡

第５４集	桜井畑遺跡（Ａ・Ｃ地区）
第５５集	身洗沢遺跡・一町五反遺跡
第５６集	丘の公園第５遺跡発掘調査報告書
第５７集	湯沢遺跡
第５８集	城下遺跡・原田遺跡

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

No.	貸し出し期間	申請物件名	申請者名	利用目的
1	4.15～6.16	一の沢西遺跡出土動物把手付深鉢２点 〃　顔面把手付深鉢１点 〃　動物把手５点 〃　土偶２点	市立名古屋科学館 中日新聞本社	「人類誕生400万年」展に展示のため
2	6.19～8.10	同上	中日新聞本社	同上（福井県立博物館での同展）
3	7.1～9.20	竜王２号墳出土馬具６点 四ツ塚古墳群４号墳出土馬具１点 〃　12号古墳出土馬具２点 竜王２号墳出土馬具写真１点 〃　石室正面写真１点 四ツ塚古墳４号墳出土馬具写真１点 〃　墳丘正面写真１点 〃　12号墳出土馬具写真１点	八戸市教育委員会	「いにしへの東日本」に展示のため
4	8.16～10.4	赤烏元年銘神獣鏡１面（複製）	奈良国立博物館	発掘された古代の在銘遺宝に展示のため
5	6.9～7.18	安道寺遺跡出土縄文土器３点 殿林遺跡出土縄文土器写真１点 金の尾遺跡出土弥生土器３点 二の宮・姥塚遺跡出土平安時代土器５点 西田遺跡遺構写真２点 塩山警察署内展示資料一括12点	塩山市教育委員会	塩山市歴史民俗資料室第29回企画展に展示のため
6	9.18～11.13	笠木地蔵遺跡出土尖頭器２点 弥二郎遺跡出土切出形石器１点 丘の公園14番ホール遺跡出土石器41点 丘の公園第１遺跡出土石器ほか17点 丘の公園第２遺跡出土石器ほか87点 丘の公園第５遺跡出土石器ほか２点 丘の公園第６遺跡出土石器ほか５点	釈迦堂遺跡博物館	特別展「山梨の生い立ち」に展示のため

No.	貸し出し期間	申請物件名	申請者名	利用目的
		立石遺跡出土石器42点 天神堂遺跡出土石器20点	釈迦堂遺跡博物館	特別展「山梨の生い立ち」に展示のため
7	9.12～11.14	金生遺跡出土硬玉製大珠1点 〃　垂飾2点 天神遺跡出土硬玉製大珠1点 丘の公園内遺跡出土水晶1点 丘の公園内遺跡出土ナイフ形石器2点 竜王3号墳出土切子玉2点 〃　勾玉2点 〃　管玉2点 亀甲塚古墳出土管玉1連	甲府商工会議所	甲府博覧会「宝石館」に展示
8	11.2～11.4	塩川遺跡出土縄文土器 〃　刀鍔 〃　人骨写真	須玉町教育委員会	町文化祭に出展のため
9	12.20～1.31	稲荷塚古墳出土馬具7点 豆塚遺跡出土土馬ほか2点 土馬模型5点 馬の線刻画写真ネガ1点 竜王2号墳出土飾り金具写真ネガ1点 甲斐茶塚古墳出土鐙写真ネガ1点 第5回特別展写真ネガアルバム1点	釈迦堂遺跡博物館	「甲斐の馬の歴史」展に展示のため

今年度は以下の収蔵資料の掲載許可申請があり、許可した。

No.	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
1	4.18	一の沢西遺跡出土動物把手付深鉢	市立名古屋科学館	『人類400万年展』のポスター・チラシ・図録に掲載のため
2	4.18	一の沢西遺跡発掘状況	同上	同展の展示パネルに使用
3	6.14	金生遺跡のイノシシ下顎骨出土状況	毎日新聞社	『日本のあけぼの』に掲載のため
4	6.16	釈迦堂遺跡群出土土偶一括写真	毎日新聞社	6月18日付日曜版「発掘の迷路を行く」に掲載のため
5	7.16	銚子塚古墳航空写真 丸山塚古墳竪穴式石室写真	読売新聞社	『みえてきた古代史の謎』に掲載のため
6	8.31	釈迦堂遺跡群出土土偶一括写真	旺文社	『図説学習 日本の歴史』(全8巻)に掲載のため
7	8.31	金生遺跡配石遺構写真	角川書店	『日本文明史』第2巻に掲載のため
8	8.30	天神堂遺跡出土石器写真1点 丘の公園14番ホール遺跡出土石器写真1点 立石遺跡出土ナイフ形石器写真1点	アルバ	『県別歴史シリーズ・山梨県』に掲載のため

No.	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
		金の尾遺跡方形周溝墓写真1点 金の尾遺跡出土炭化米写真1点 上の平遺跡出土籾跡付土器写真1点 加牟那塚古墳横穴式石室写真1点		
9	9.14	一の沢西遺跡出土土器写真5点	紀行社	『クロニック日本史』に掲載のため
10	9.25	金生遺跡配石遺構写真1点	集英社	『ジュニア版　日本の歴史』第1巻に掲載のため
11	9.27	釈迦堂遺跡群出土土偶集合写真1点	紀行社	『クロニック日本史』に掲載のため
12	10.16	金生遺跡配石遺構写真1点	PHP研究社	『歴史街道』12月号に掲載のため
13	2.10	姥塚遺跡調査風景写真1点	一宮町教育委員会	『大原遺跡調査概報』に掲載のため
14	3. 1	金生遺跡配石遺構写真1点	集英社	『日本の遺跡なんでも辞典』に掲載のため

5　遺跡調査発表会

当埋蔵文化財センターでは、県内で発掘調査された遺跡のうち、主なものについて山梨県考古学協会と共催で毎年2回の遺跡調査発表会を実施している。今年度は以下の8遺跡について行った。また、下半期の発表会では、本年度の県内埋蔵文化財の調査と保護について、県文化課から報告が行われている。

⊙1989年度上半期遺跡調査発表会概要（9.30　於山梨学院大学）

1．古屋敷遺跡　　富士吉田市大明見字古屋敷

市史編纂事業に伴い調査された。各土層と遺物の帰属時期の把握、遺物と火山堆積層との関係を明らかにするとともに、早期の住居址5軒竪穴状遺構2基などの遺構を確認した。遺構はかなり濃密に集中しており、該期の大規模な集落の一部と推定される。また、土器はこれまで確認されている早期後葉の資料とやや様相を異にし、客体として混ざる野島式土器に併行する新形式の可能性が考えられる。

2．大原遺跡　　東八代郡一宮町坪井字大原

工業団地造成に伴い28,000㎡が緊急調査された。古墳時代～平安時代にかけての住居址358軒、土壙14基、祭祀遺構3基、集石遺構3基が確認された。この調査では一部を盛り土保存しており、その部分や周辺を含めると、数百軒の住居址群が想定され、県下でも有数の大規模集落であると推定される。膨大な量の出土遺物があるが、特に「玉井郷長」の墨書は『和名抄』記載の郷のうち山梨郡玉井郷が一宮町坪井～石和町平井にかけての地域であることを実証した資料と言えるものである。

3．武田氏館跡範囲確認調査　　甲府市古府中町・屋形・大手・岩窪町

一昨年より始められた、館を中心とする城下町の範囲と実態を確認するための調査である。今回は数ヵ所でトレンチ調査を行い、井戸跡や水路跡が確認され、甲府城下にもかなりの井戸が存在して生活用水に充てられていたことが明らかとなった。

4．大輪寺東遺跡　　18頁参照

⊙1989年度下半期遺跡調査発表会（3.17　於甲斐風土記の丘研修センター）

5．宮の上遺跡　　東山梨郡勝沼町

1984年の調査に続く、第2次調査である。今回は駐車場造成に伴う事前調査として2,400㎡が調査され、縄文中期の住居址23軒が確認された。土偶も非常に多く、1軒の住居址から20数個の出土例もある。また、10cmを超えると推定されるパン状炭化物が出土するなど、出土遺物も興味深い。前回の調査内容や周辺の遺物の散布状況などから、100m四方以上の規模で集落が展開すると推定されており、釈迦堂遺跡群に類する有数の規模の遺跡であろう。

6．身洗沢遺跡　　24頁参照

7．長田（ちょうた）古墳群　　東八代郡御坂町下黒駒

工業団地造成に伴い3,000㎡が調査され、3基の後期古墳が確認された。このうち、1号墳は直径30m程の円墳で、8mを超える石室であることが明らかとなった。県内の後期古墳でも大規模な部類に入るものであり、石室構造から6世紀初頭に位置付けられる。鉄鏃や須恵器片などとともに馬具が出土しており、近接の四ッ塚古墳群や国府築地古墳群などと様相を異にしている。

8．中村道祖神遺跡　　北巨摩郡明野村浅尾

県内では数少ない中世遺跡の調査。圃場整備に伴い、4,000㎡が調査された。鎌倉～室町期にかけての地下式土壙105基、土坑墓14基、建物跡などを確認した。地下式土壙のうち、20基ほどからは人骨のほか、古銭や内耳土器、灯明皿などの生活用品も出土している。地下式土壙が墓であることが明らかにされたが、推定30アールにもおよぶ広範な地域に100基以上が集中する状況は非常に希であり、これを構成した「集団」の性格が興味深い。

II　各遺跡の発掘調査概要

1．宇津谷（うつのや）・諏訪（すわ）神社窯跡

所　在　地　北巨摩郡双葉町宇津谷字藤塚1016－1　諏訪神社境内
事　業　名　生産遺跡詳細分布調査（第３年次）
調査期間　1989年11月14日～27日
調査面積　50㎡
担　当　者　末木　健

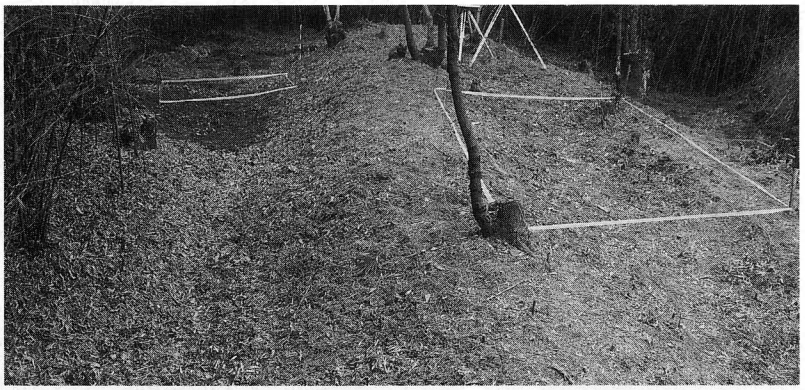
宇津谷・諏訪神社窯位置図

本窯は1989年度に調査した宇津谷・峠の腰窯の南側で、茅ヶ岳南の山麓末端の標高363mに立地する。この窯は諏訪神社の境内地にあることから、その社の名前をとって命名している。

窯の規模は全面調査の結果ではないので正確ではないが、1989年11月14日～27日の間試掘調査した結果では、全長15m、窯底幅1.58mの登り窯である。窯壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁面は甕の口縁部をレンガ状に積み上げて構築されている。現存する窯壁は窯底部より85cm～95cm残っているが、天井は総て崩落している。窯内部に壁面を構成する甕口縁部があまり落ち込んでいないことから、天井は竹を編んだ上に粘土でおおった構造をしていたものであろう。傾斜を強くするために北側に盛り土をし、窯の両側にも土を盛り上げている。また、窯に斜面からの表流水がかからないように、西側にV字溝が掘られている。溝は幅170cm、深さ90cmである。窯の東側は全体が低くなっており、特別な溝を掘らなかったか、あるいは幅広い溝であったのか明らかでない。出土品は釉のかかった茶碗などが多く、江戸時代の甲斐国地方窯の中では、最も優れた焼き物を生産していたと言うことができ、現存する県内の登り窯跡としては、保存状態が最も良い窯である。

本窯跡は『甲斐国志』の巻百二十三付録第五に「甕」北山筋ノ宇津谷村武川筋ノ下条南割ニテ造ルハ水甕に用イル」と記載された宇津谷・峠の腰窯と同一職人集団によって、ほぼ同一時期に操業された。これらの窯に関しては、『甲斐国志』の他にも、同地区にある天香山妙善寺所有文書の年貢割付帳に、文化９年～文政８年までの14年間瓶焼運上の記載が見える（双葉町文化財審議委員保坂吾良吉氏調査）。

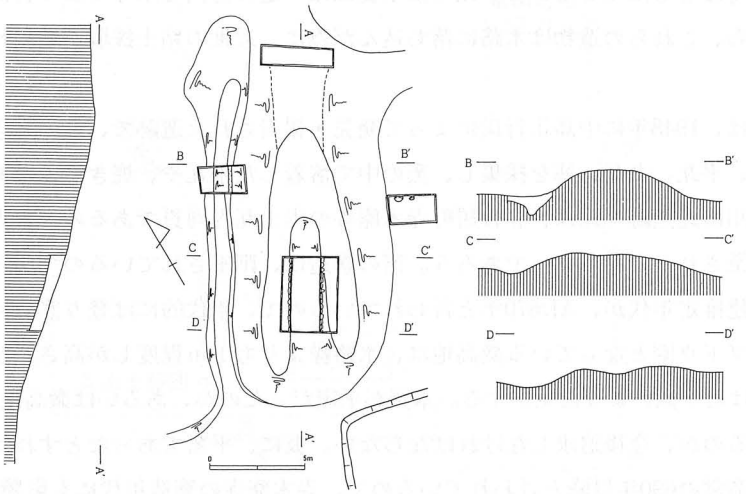
なお、この調査には諏訪神社総代の方々をはじめ、町郷土研究会、町文化財審議会、町教育委員会の多大なる協力を得た。



宇津谷・諏訪神社窯調査前全景

窯　内　部

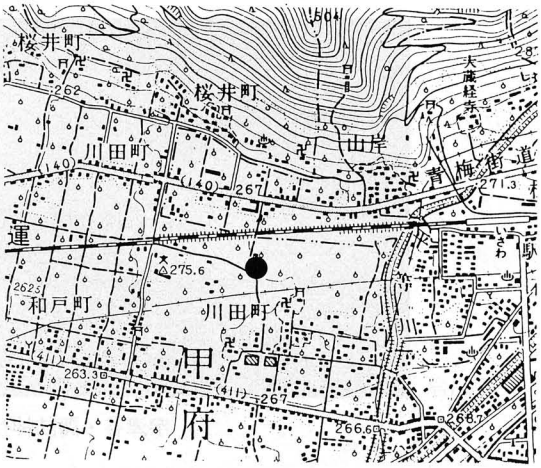
窯内部調査風景



全　体　図

2．川田瓦窯跡（かわだ）

所　在　地　甲府川田町245－2
事　業　名　生産遺跡詳細分布調査（第3年次）
調査期間　1989年11月21、22日
面　　積　6㎡
担　当　者　末木　　健



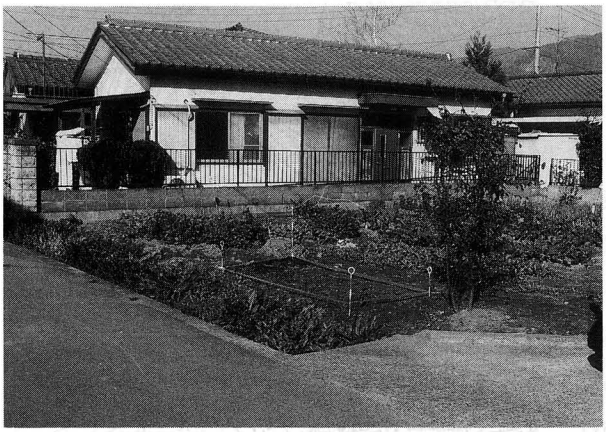
川田瓦窯位置図

本調査は文部省の補助金を受けて、県内の窯跡の分布を調べているもので、本年は3年次で、この調査の最終年度である。

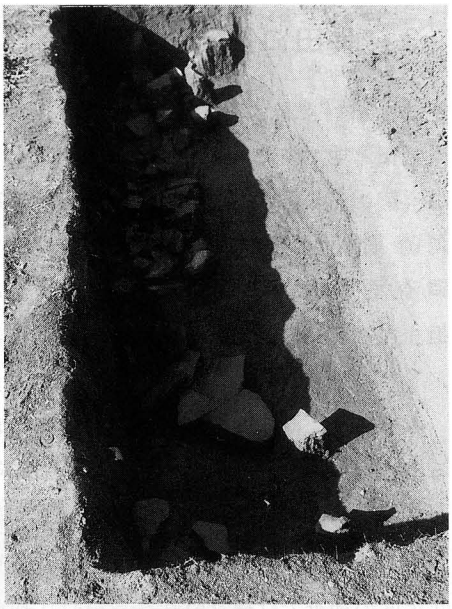
本遺跡は、甲府市の東部の川田町にあり、275mの微高地に立地している。西方約400mには、昨年度に調査した上土器窯跡があり、付近一帯が古代よりの窯業地帯と想定されている場所である。また、近代には瓦の生産地として有名であり、たくさんの窯場が軒を連ねていた。このように窯業の盛んな地域となった原因は、この土地の粘土が良質で、包蔵量も多いことによるという。表土の下は赤褐色粘土があり、これを焼き物に使用した。

調査は、畑の南川にL字形に2本のトレンチを設定し、これを無遺物層まで掘り下げた。この結果、2本のトレンチからは瓦・土師器が出土し、一部には焼土や炭なども検出できた。瓦の出土状態から、畑の南を通っている現在の水路が、かつては畑を斜めに横切るように流れており、この縁に沿って、窯が数基築かれていた事が判明した。瓦は軒丸瓦、平瓦、丸瓦があり、このほかレンガ状の塼なども出土している。瓦の出土範囲は一定の方向を示しており、砂利なども含んでいることから、これらの遺物は水路に落ち込んだ為に、近世の粘土採取から免れたものと考えられる。

川田瓦窯跡は、1948年に中島正行氏によって発見・報告された遺跡で、このときは水路中から軒丸瓦や鴟尾、平瓦、丸瓦、塼を採集し、窯の中で溶着した平瓦や、焼き歪みのある軒丸瓦が出土している。川田瓦窯跡の瓦は、春日居町寺本廃寺の出土瓦と同質であるので、寺本廃寺に供給するために創業されたと見て良いであろう。窯の構造は、削平されているので明らかではない。寺本廃寺の創建推定年代が、AD670年と言われているので、年代的には登り窯の可能性が高い。しかし、現在ブドウ園となっている微高地は、水路縁よりも1m程度しか高さが無いので、登り窯を築くのには若干低いような気がする。本窯が平窯だったのか、あるいは微高地が削平されて、低くなっているのか、今後追求しなければならない。仮に、平窯であったとすれば、畿内の平窯発生が藤原宮造営の690年以降と言われているので、寺本廃寺の築造年代にも影響が生じてくる。

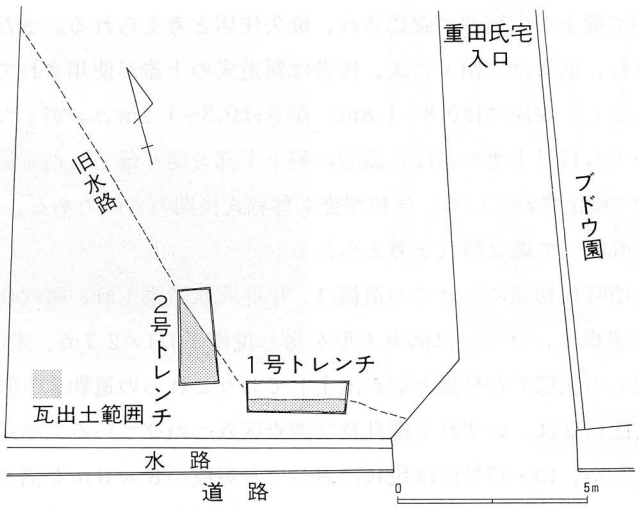


川田窯トレンチ設定



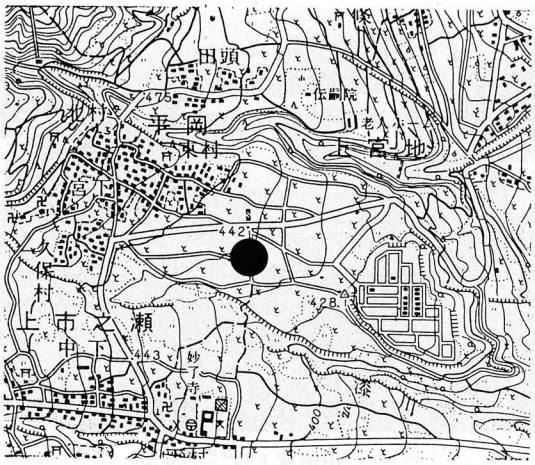
1号トレンチ瓦等出土状況

調査風景
（車の奥のブドウ園が旧地形）



3．長田口（おさだぐち）遺跡

所　在　地　中巨摩郡櫛形町平岡地内
事　業　名　富士川西部広域農道建設事業
調査期間　1989年10月23日～12月27日
調査面積　1,700㎡
担　当　者　浅利司、保坂和博



長田口遺跡位置図

本調査は、櫛形町平岡字長田口地内における富士川西部広域農道建設に先立って昨年度から3ヵ年計画で行われた調査である。

本遺跡は、甲府盆地西縁の櫛形山の東麓に広がる市之瀬台地上、標高約440mに立地している。昨年度の調査では縄文時代～古墳時代初頭にかけての各種の遺構が確認されており本遺跡の一端が明らかにされている。

今回の調査は、昨年度調査を行った地点の北側にあたる幅12m、長さ170m程の範囲において実施した。また、発掘区内においては1.0m四方で深さ0.8mの調査坑を4.0m間隔で23ヵ所設定し、先土器時代の遺物の有無を確認した。

調査の結果検出された遺構は、竪穴住居址11軒、小竪穴状遺構1軒、土壙24基、溝状遺構4条、集石遺構3基である。

縄文時代の遺構は、竪穴住居址4軒、土壙24基、単独埋甕1基、集石遺構3基が検出されている。4軒の住居址は共に攪乱等により、しっかりしたプランはとらえられなかった。しかし、7号住では床面において焼土が広範囲に確認され、焼失住居と考えられる。また、8・9号住からは、埋甕炉が検出され、前者は五領ヶ台式、後者は新道式の土器が使用されている。土壙は、ほとんどが不整円形を呈し、規模は径0.8～1.8m、深さは0.3～1.2mと一定しない。遺物は各土壙で出土しており、中でも17号土壙からは意識的に胴下半部を切り落としたと思われる曾利式後期の土器が逆さの状態で検出されている。単独埋甕も曾利式後期のものである。3基の集石遺構は、共に覆土の状態から判断して縄文時代と考えられる。

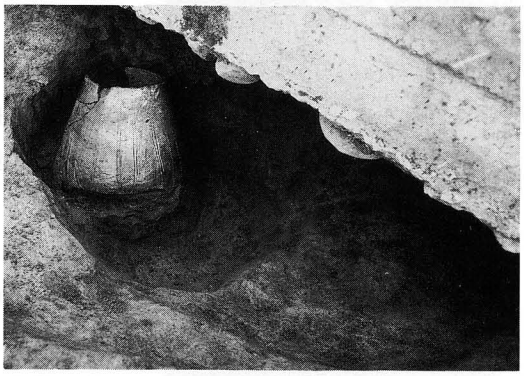
弥生時代末から古墳時代初頭にかけての遺構は、小竪穴状遺構1軒、竪穴住居址7軒が検出されている。小竪穴状遺構は、プランは隅丸方形を呈し規模が3.1×2.7m、床面までは約0.4mを測る。床面には横倒しの状態で台付甕と壺が出土しておりこれらの遺物より弥生時代末頃と考えられる。7軒の竪穴住居址は、いずれも攪乱及び調査区外へのびているためにしっかりとしたプランはつかめなかったが、13・17号住は現状においても規模が8×6mを測り大型のものであり注目された。

中世以降の遺構は、溝状遺構2条、道状遺構2条が検出されている。5・6号溝は、並行して走り、それぞれの規模は5号溝は幅1.8～2.4mで深さは平均で0.9m、6号溝は幅3.6～5.2mで

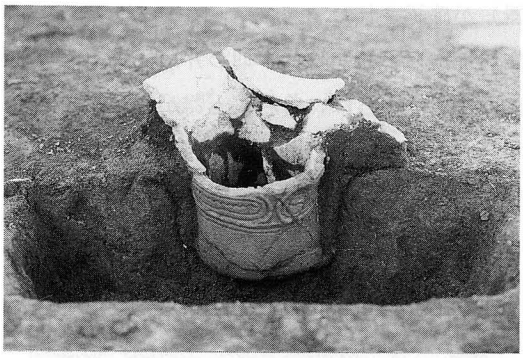
深さは平均で1.6mである。出土遺物は、5号溝からは熙寧元宝等2枚、鏡片1枚、6号溝からは永楽通宝・元豊通宝等20枚、青磁器片が検出されている。鏡片は鈕の部分がなく4分の1位の円弧形を呈する。復元径は11.4cmあり、平縁の内側には斜行櫛歯文帯があり、端部は研磨し平縁の両端部にそれぞれ穿孔がある。鏡式は内行花文鏡と考えられる。これらの溝は、享保20年（1735）の絵図面に描かれている用水路である可能性が高く、中世以降の市之瀬台地上の開発の歴史を探る端緒となるものである。道状遺構は、2条確認されているが連続するものと考えられ、これらの遺構からは少数の近世陶磁器片が出土している。

なお、今回の調査で注目すべき点としてナイフ型石器が検出されたことが上げられ、県内では数例しか発見されておらず、今後の先土器時代研究の貴重な資料となるものである。

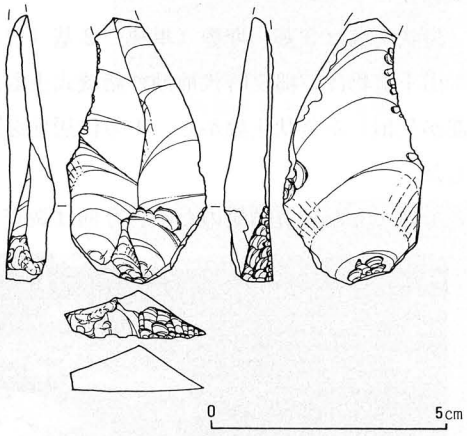
9号住居址



17号土壙遺物出土状況



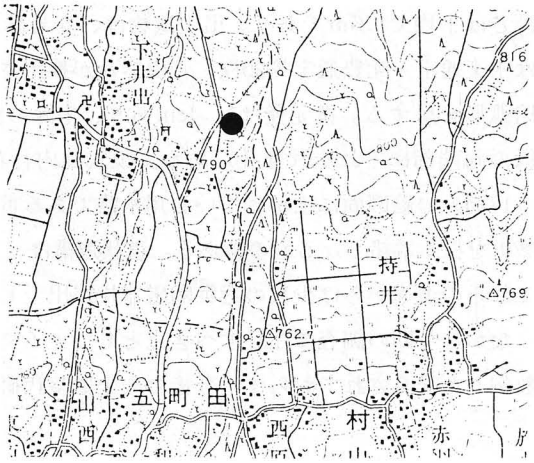
9号住居址埋甕炉



石器実測図

4．甲ッ原（かぶばら）遺跡

所　在　地　北巨摩郡大泉村西井出字大林8869－1他
事　業　名　県道八ヶ岳公園線工事
調査期間　1989年11月6日～12月12日
調査面積　500㎡
担　当　者　山本茂樹、森原明廣



甲ッ原遺跡位置図

本遺跡は、甲府盆地の北西にある八ヶ岳を形成する赤岳・権現岳の南麓にあり、標高は800m前後のなだらかな南傾斜地に位置する。

遺跡は、東側に油川、西側に甲川の両河川に挟まれ、周辺は開墾され畑地となっている。

今回の発掘調査は、県道八ヶ岳公園線建設工事に先だって遺跡分布調査により遺物が確認され、遺構の存在が予想できることから事前調査を行った。

調査区域は山林地帯で、根による攪乱が著しく、遺構の検出が困難な箇所もあった。調査は、遺構確認面を明らかにするために、調査区域の南半分に試掘トレンチを5本設定し掘り下げた。その結果、表土下約40cmで土器が多量に出土し、また、石組状の遺構が確認された。そこで、北半分は、表土を重機により排土し、その後5mグリッドを調査区域内に設定した。

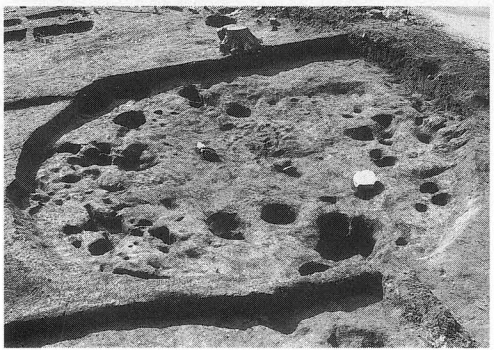
発掘された住居軒数は8軒で、1号住居址については新旧関係が認められる。また、石囲炉が2基存在している。

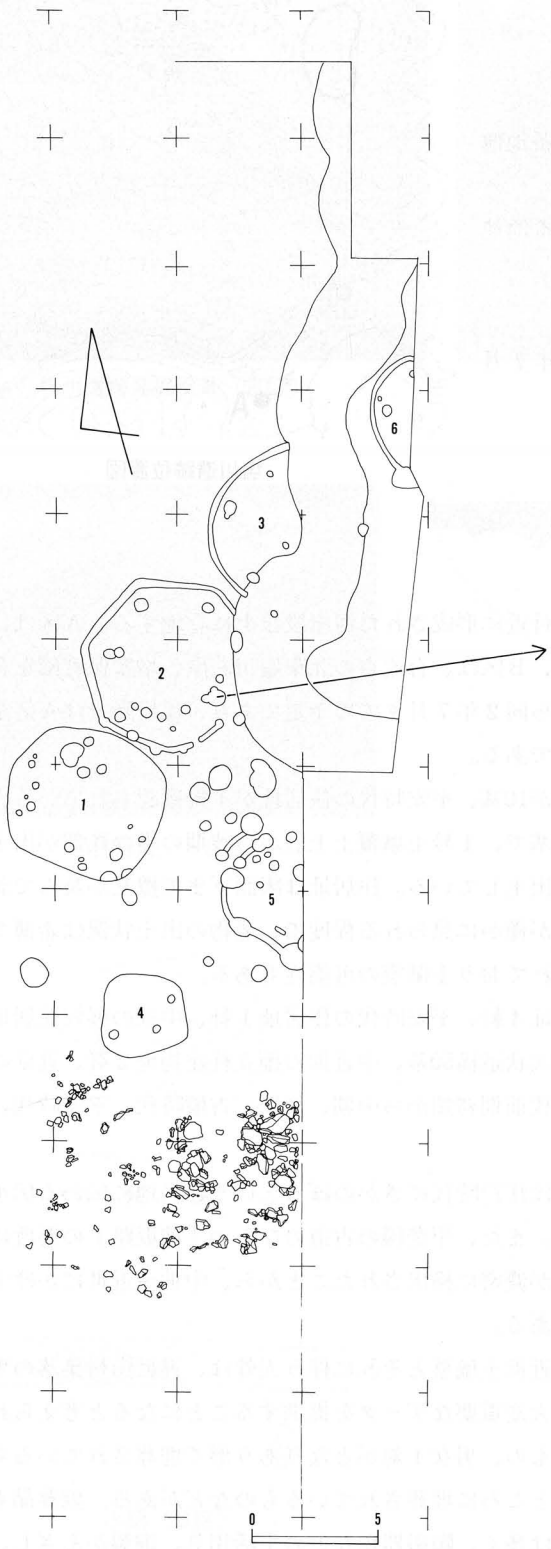
袋状土壙は3基、埋甕（単独）2基（曽利式土器）が確認された。

出土遺物は、縄文時代前期の諸磯式土器が1号住居址から、縄文時代中期の井戸尻式土器（底部が欠損）が袋状土壙から、1号住居址を除いた他の住居址からは、曽利式土器がそれぞれ出土した。

このような調査結果のため、今回は調査予定面積1,000㎡のうち500㎡の調査にとどまった。

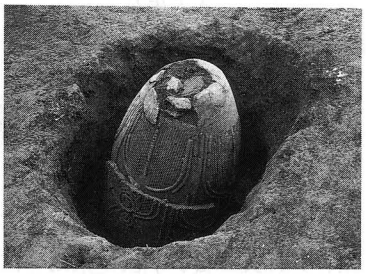
遺構配置（南方向から）


1　号　住　居　址

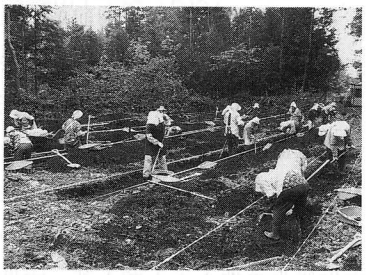


甲ッ原遺跡全体図

遺構配置（北方向から）



埋　甕

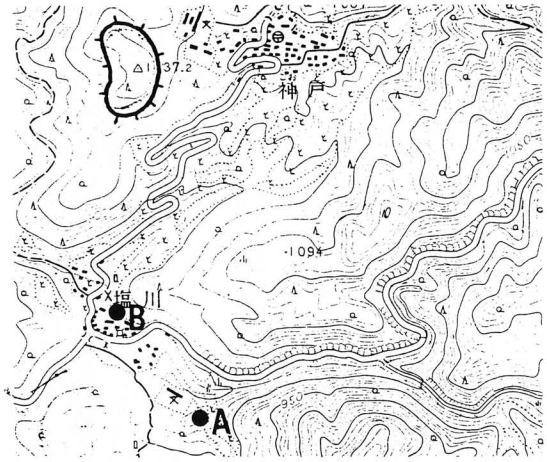


試掘トレンチ（南側）

配石(？)状況

5．塩川遺跡（しおかわ）

所　在　地　北巨摩郡須玉町比志3870番地他
（A区）
北巨摩郡須玉町小尾200番地他
（B区）
事　業　名　塩川ダム建設事業
調査期間　1989年5月15日～1990年7月
（予定）
調査面積　A区約2,000㎡
B区約10,000㎡
担　当　者　八巻與志夫、保坂裕史



塩川遺跡位置図

塩川遺跡は、塩川と本谷川の合流点付近に形成された河岸段丘上に立地する。A区は、本谷川左岸の旧須玉北小学校の東南に位置し、B区は、合流点の北東塩川左岸、増富保育園を含む一帯に位置する。調査は、平成元年5月から同2年7月までの予定であり、現段階ではA区全域と、B区の約半分の調査が終わったところである。

A区では縄文時代中期前葉の土壙墓が10基、平安時代の住居址が1軒確認されている。10基の土壙のうち遺物が出土しているのは2基で、1号土壙覆土上層から該期の甕の底部が出土し、また3号土壙からは該期の浅鉢が完形で出土している。住居址は床面下まで攪乱が及んでおり、甲斐型土器の皿の破片、同時期の土器片が僅かに見られる程度で、遺物の出土状況は希薄である。その他、焼土を伴う溝状遺構が検出されており土師窯の可能性もある。

B区では、縄文時代中期後半の住居址4軒、平安時代の住居址1軒、中世の竪穴住居址1軒、中世後半の地下式土壙1基、中世の竪穴状遺構50基、中近世の掘立柱建物址2群、近世の土壙墓74基が確認されている。遺物は縄文時代前期初頭から中期、後期、古墳時代、平安時代、中世、近世とまんべんなく出土している。

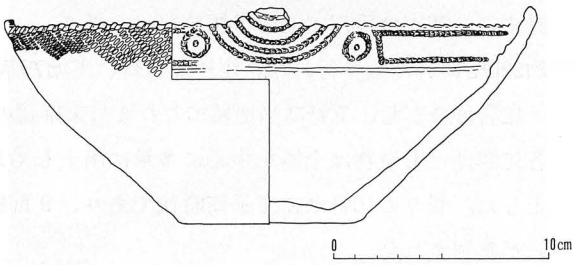
これまでの調査で、塩川集落の成立は江戸時代にさかのぼるという、当地に伝わる伝承を修正しなければならない結果が出つつある。また、甲斐国の古道のひとつ「穂坂路」の要所に位置することと、中世後半（戦国期）の遺構が濃密に検出されたことから、中世～近世にかけての街道沿いの集落遺構として注目される所である。

更に、B区で確認されている74基の近世土壙墓とそれに伴う人骨は、近世山村集落の生活実態をより具体的に知る手掛かりとして、大変重要なデータを提供することになると考えられる。埋葬については、単独で埋葬されているもの、男女1対がとなりあう形で埋葬されているもの、また、子供を含め3体～4体がごく近いところに埋葬されているものなどがある。副葬品も多岐にわたる。キセル、火打ち石、銭の出土は多く、陶磁器類などの生活用具、銅製かんざし、鏡、小刀なども出土している。

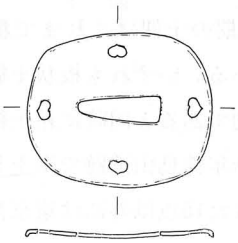
塩川遺跡発掘風景（B区）

21号(左)人骨出土状況（B区）

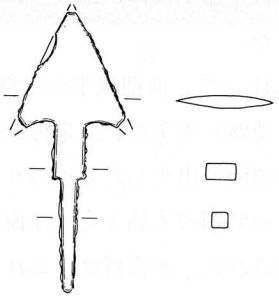
1号住居址（B区）



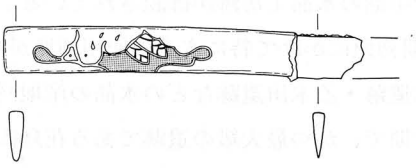
3号土壙出土土器（A区）



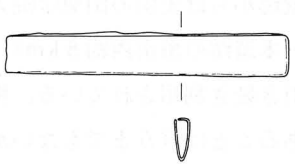
鍔（B区）



鉄鏃（B）



小柄（B区）



小柄（B区）

6．獅子之前（ししのまえ）遺跡

所　在　地　塩山市千野字獅子之前404-1他
事　業　名　国道411号バイパス建設
調査期間　1989年５月15日～12月４日
調査面積　3,000㎡
担　当　者　長沢宏昌、高野玄明

獅子之前遺跡位置図

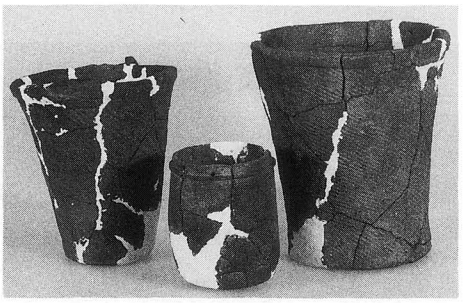
獅子之前遺跡は塩山市中心部にほど近く、重川右岸の微高地上、標高約450m前後に位置する。調査は重川に沿って幅約14m・長さ約230mにわたって行われ、住居址17軒、土壙79基の他、溝・川跡や浅い谷などが確認された。

住居址のうち、７軒は当地域でこれまで未確認の縄文時代前期末に位置付けられるものである。各住居址とも遺物は土器を中心に多量に出土しており、特に３号住居址からは小破片が大量に出土した。残りの10軒は総て平安時代であり、９世紀半ばから12世紀代まで幅広く居住していることが確認された。

土壙の１基は平安時代に位置付けられるが、それ以外は、縄文時代前期末～中期初頭の土器を出土しており、完形土器を埋納したものも含まれている。40号土壙からは前期最終末の深鉢２個体と有孔鍔付土器１個体が出土し、２号・75号土壙などからは前期末や中期初頭の深鉢がほぼ完形で出土した。

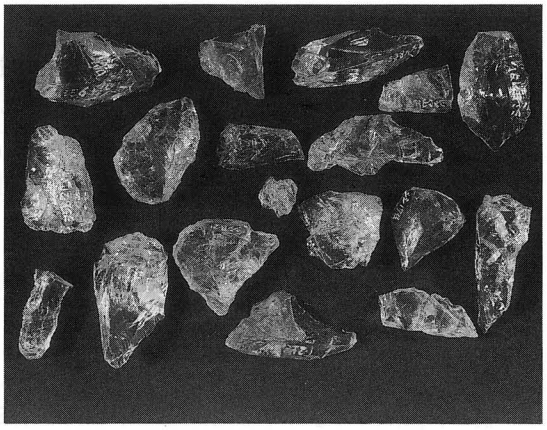
住居址に伴って、前期後半の土偶が３点出土した。この時期の土偶はこれまで釈迦堂遺跡群（塚越北Ａ遺跡）で７点、大泉村天神遺跡で１点が出土している。いずれも板状土偶で立体的ではない。本遺跡で出土した３点のうちの２点は脚部で、立体的であると同時に粘土紐による施文もあり、この時期の土偶としては他に例を見ない。また、一昨年花鳥山遺跡で出土した人形状土製品も確認された。本資料は、これまで花鳥山遺跡で確認された15点以外には東京都下でただ１点報告されているだけである。

本遺跡の特徴として水晶の出土が多いことがあげられる。現在までに80点以上の原石・剝片が確認されている。本遺跡の北約３kmには「水晶山」という水晶採掘坑があり、この麓に位置する乙木田遺跡からは先頃の山梨学院大学による調査で中期の水晶工房跡が確認されている。釈迦堂遺跡群（本遺跡の南南西約８km）では早期末～前期初頭にかけて特に水晶の使用頻度が高く、中期まで引き続き利用されている。釈迦堂遺跡群や本遺跡・乙木田遺跡などの水晶の産地同定が最重要であることは言うまでもないが、本遺跡と同時期で、かつ最大級の遺跡である花鳥山遺跡（本遺跡の南南西約14km）では水晶の石器あるいは原石・剝片は出土しておらず、水晶使用の継続性と供給範囲・交易を知るための良好な資料となろう。

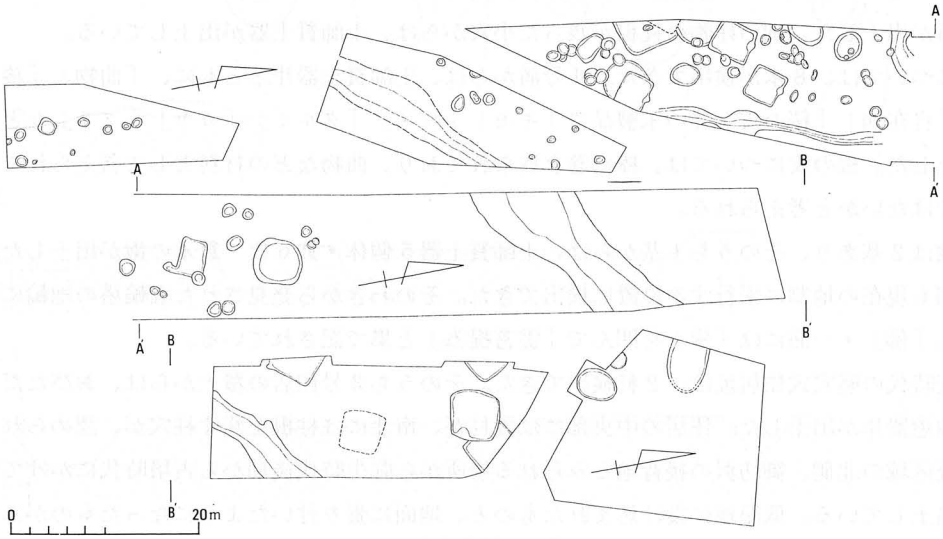


40号土壙　上　出土土器
　　左　遺物出土状況

土　偶



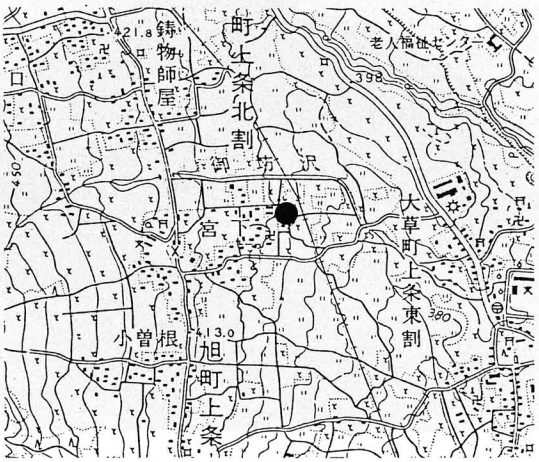
水　晶



獅子之前遺跡全体図

7．大輪寺東遺跡（だいりんじひがし）

所　在　地　韮崎市旭町上条北割字宮下3227番地ほか
事　業　名　旭バイパス建設
調査期間　1989年6月5日～9月27日
調査面積　2,400㎡
担　当　者　新津健、丸山哲也



大輪寺東遺跡位置図

大輪寺東遺跡は、韮崎市旭町上条北割字宮下に位置する。今回の調査区域は、釜無川右岸の標高400mの水田地帯にある甘利山大輪寺に接した地域である。このあたりには、武田信義館跡・白山城・白山城烽火台跡・ムク台烽火台跡・甘利氏館跡・およびその要害の城といわれる扇平など中世城館跡が点在している。なかでも大輪寺を中心とした地域には、「甲斐国志」によると甘利氏の居館があったとされている。実際、寺の境内には土塁の一部と思われる高まりが認められるとともに、周辺には、「大堀」「大庭」「的場」「北門」といった地名が残されている。

調査は、発掘区域を大輪寺の東側から1区とし、北に向かって2区3区と道路によって分割するとともに、道路中心杭を基準に5m×5mのグリッドを設定した。

1区からは、建物の礎石と雨落ちの石と思われるものが検出できた。さらにそれを取り囲むように溝が回っている。この区域からは、白磁・青磁・天目などの陶磁器片が出土している。また、何本もの溝が検出されたが、この溝と現在の地割は、ほぼ同じである事も興味深い。

2区からは、小穴が、多数検出されている。内耳土器を伴った2号住居の小穴からは、大窯期の丸皿が出土した。別の建物の柱根が残った小穴からは、土師質土器が出土している。

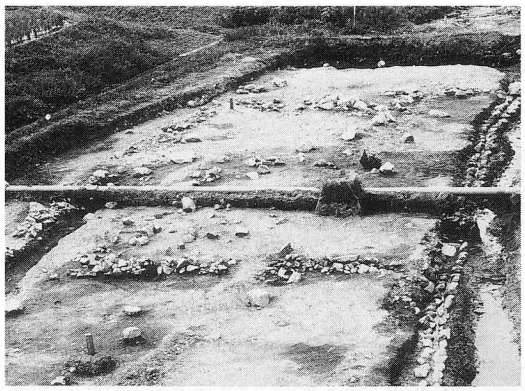
溝については、8本が検出できた。4号溝からは、土師質土器片とともに、「曲物」「漆塗り椀」「自在鉤」「桜の皮」等の木製品や「モモ」「ウメ」「クルミ」「カヤ」「クリ」などの実が出土した。桜の皮については、棒に巻き取られており、曲物などの材料として蓄えられていたものではないかと考えられる。

墓壙は2基あり、そのうち1基からは、土師質土器5個体・銭6枚・数本の歯が出土した。

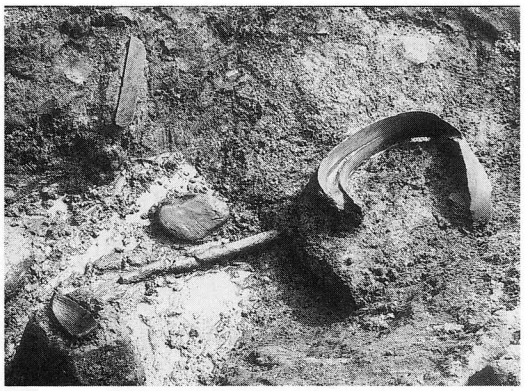
石列も現在の地割に平行する位置に検出できた。そのわきから発見された五輪塔の地輪には、三面に「佛」・一面には「佛」を囲んで「霊菩提為」と墨で記されている。

平安時代の竪穴式住居址は、2軒検出できた。そのうち3号住居の覆土からは、おびただしい数の須恵器片が出土した。住居の中央部には置柱が、南北には柱根を残す柱穴が、認められた。

調査区域の北側、御坊沢の後背地とみられる場所から弥生時代後期から古墳時代にかけての土器が出土している。低湿地に投げ込まれたものと、地面に張り付いたようになったものがある。4個体が復元可能であった。付近に集落があったものとみなされるが、今回の調査では確認できなかった。



中世の建物跡



4 号溝木器出土状況

2 号住居址平面図

8．中込（なかごみ）遺跡

所　在　地　北巨摩郡長坂町字大井ヶ森
事　業　名　八ヶ岳広域農道建設工事
調査期間　1989年６月５日～７月26日
調査面積　970㎡
担　当　者　保坂康夫、浅利司

中込遺跡位置図

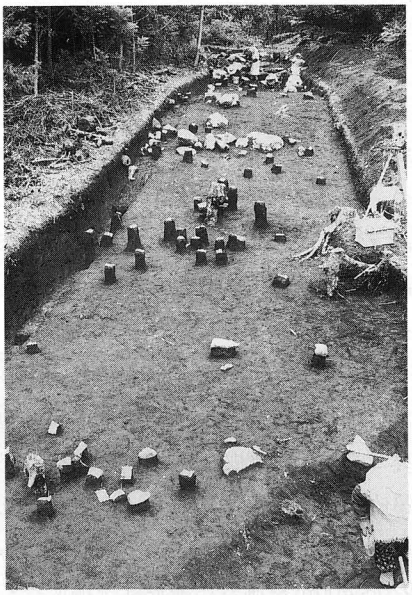
中込遺跡は、八ヶ岳南麓標高900ｍの、古杣川によってつくられた小さな河岸段丘上に立地する。遺跡の東側は、古杣川に切られた崖となっている。古杣川を挟んだ東側と遺跡の西隣には、韮崎岩屑流による「流山」がある。段丘面には緩やかな起伏があり、かつて流路であったことが想像される。周知の遺跡ではなかったが、建設工事に先立ち試掘坑を入れたところ数片の土器片と石器片が確認され、今回の調査にいたった。

発掘は既存の道路で東西に分けて実施した。東区は全面的に発掘し、西区には２ｍ×５ｍのトレンチを３本入れたが、どちらからも遺構は一切検出されなかった。遺物は、東区から400点ほどが出土し、西区からはほとんど出土はなかった。地表から浅いところで韮崎岩屑流がみられ、谷部以外は土壌堆積は薄かった。全体的にみて、遺物は尾根部から続く斜面に多く出土した。

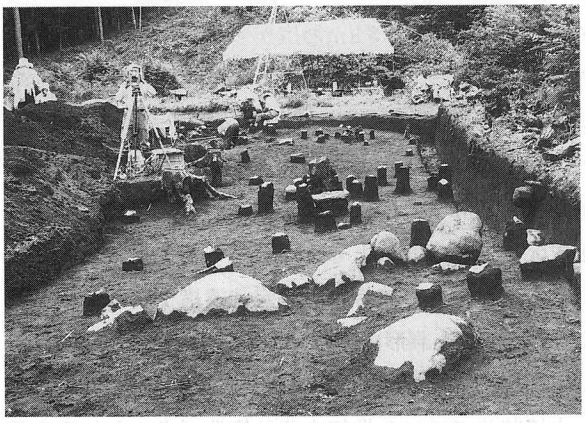
出土遺物は土器と石器である。土器は縄文時代早期末のものを中心に、縄文時代草創期から後期までのものである。草創期に属する爪形文土器はわずか２点のみの出土であるが、県内では草創期に属する人々の痕跡が確認されていなかったため、貴重な資料である。早期末の土器としては、絡条体圧痕文を有する土器が出土しており注目される。絡条体圧痕文土器は、子母口式土器の指標とされてきたが、近年、早期末にも存在することが確認され、その時間的、空間的広がりが注目されている。伴出している条痕文を有する土器・貝殻腹縁文を有する土器とあわせて、不明な点の多い当該期を解明する一資料となりそうである。これらの他に、中期初等五領ヶ台式土器などが出土している。石器は黒曜石製の石槍２点をはじめとして、石鏃、磨石・敲石類、凹石、打製石斧、横刃形石器、礫器等が出土している。石槍は幅２cm、長さ４cmほどで、縄文時代でも古い時期のものと思われる。磨石の中には早期末に特徴的な、いわゆる「特殊磨石」が含まれている。

これらの遺物は、分布上いくつかのまとまりを形成している。とくに石器は機種ごとに分布が分かれる傾向にあり、土器の分布状況とあわせて、当時の生活様式の一端を知る上で興味のある事実である。

遺跡遠景

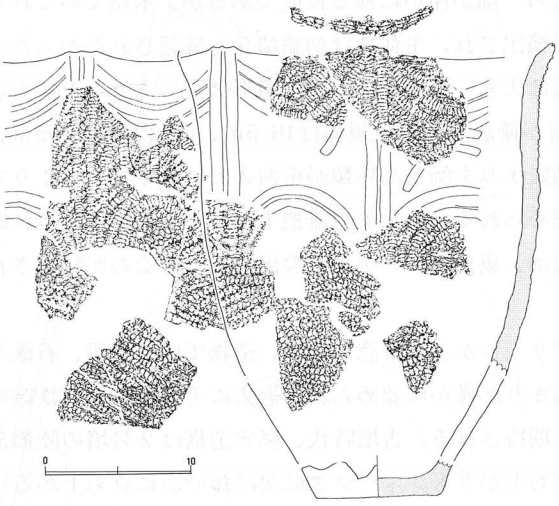


東区発掘状況



東区発掘状況

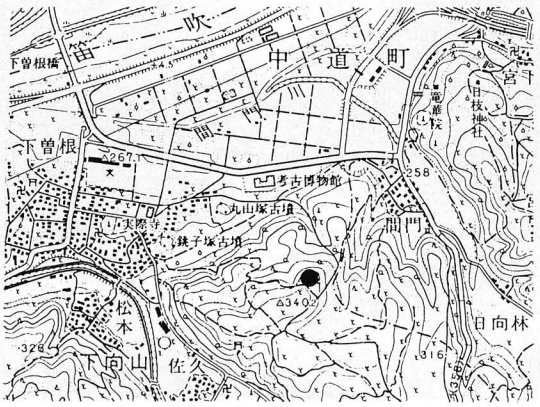
五領ヶ台式土器出土状況



絡条体圧痕文土器

9．東山南（Ｂ）遺跡（ひがしやまみなみ）

所　在　地　東八代郡中道町下向山字東山
事　業　名　公園整備事業
調査期間　1989年５月６日～７月25日
調査面積　8,000㎡
担　当　者　末木健、小林広和



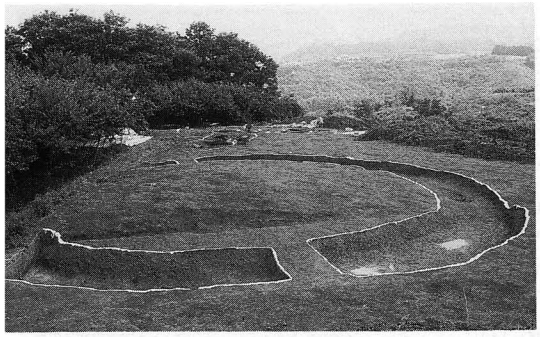
東山南（Ｂ）遺跡位置図

曾根丘陵は甲府盆地南縁部の丘陵地帯の総称で、背後の御坂山塊よりテラスに張り出し、笛吹川の氾濫原にいたる。この曾根丘陵は東の境川村より西は市川大門町にいたる東西約12.5km、南北約３kmの広がりが認められ、標高は270～400mを測る。地形は一様でなく丘陵先端部の高位段丘と、丘陵を分断する小河川により変化にとんでいる。遺跡はこの丘陵地帯のほぼ中央の標高380mを測る東山に位置する。

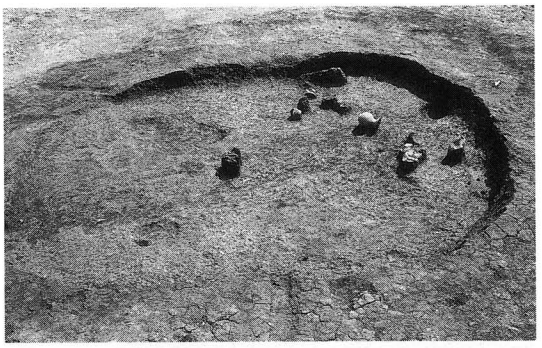
調査は、現状が休耕の桑園、または山林の状態となっていたため、抜根を行った後、機械により耕作土を全面にわたり除去した。東山南遺跡は、昭和56年度に今回の西側の地区を調査しており、これと区分するため56年度分をＡ区、平成元年度分をＢ区とした。

発見された遺構は、弥生時代の住居址１軒、古墳２基、古墳時代の竪穴状遺構１基、風倒木痕２ヵ所、時期不明の溝２本である。弥生時代住居址は、小判形に近い長方形状を呈し長軸4.93m、短軸4.12mの規模を有して、主柱穴４本、入り口施設に伴うピット１ヵ所、地床炉が検出された。遺物は、弥生終末の土器類が主体を占める。古墳時代では、５世紀中葉に築造が求められる２基の古墳が検出されたが、１基は大部分が調査区域外であるため、溝の一部を確認したにとどまった。１号墳は耕作等により削平が進み、墳丘の一部が僅かに残る程度であるが、本県でのこれら小型円墳例は、これまでの調査では溝のみが検出され、主体部は勿論墳丘も確認されなかったのが現状であり、その意味でも本例のもつ意義は大きいものといえる。墳形は溝のありかたから、円墳と考えられ、溝にかかる陸橋部は２ヵ所が確認される。規模は16.5m、溝幅2.3～3.05m、深さ0.5～0.9m前後を計測する。遺物は、溝底より土師器高坏類が南西よりブリッジ付近よりで破片の状態で比較的集中して出土するのが認められる。また須恵器把手付碗１個体が破壊され四方に撒かれたように、破片で溝内の西部、南部、東部の３ヵ所より検出されているのが特記される。

２号墳は、溝の一部確認にとどまったがブリッジが１ヵ所認められ、遺物では須恵器、石鏃等が検出されている。また溝以外では墳丘の高まりが僅かに認められ、過去にその箇所より鉄鏃の出土も伝えられるところから、今後の調査に期待される。古墳時代、竪穴遺構は２号墳の陸橋部南側に位置する。形態は瓢箪状を呈して、立ち上がりもシャープさに欠け緩やかに立ち上がる。底は踏み固められた痕跡もなく、柱穴等の施設も認められない。遺物は土師器類が少量出土している。

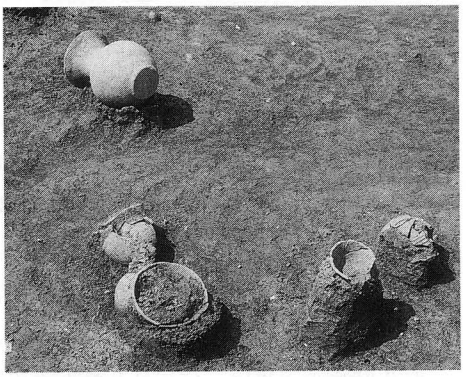


東山南Ｂ区、１号墳全影・西より

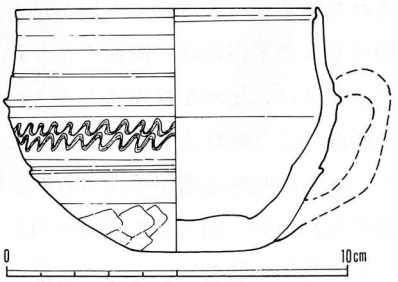


東山南Ｂ区、１号住居址全影

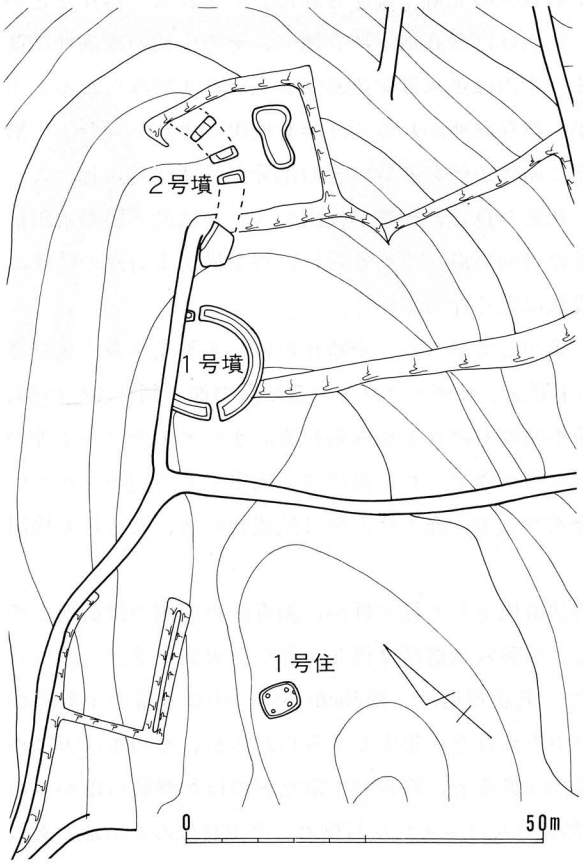
東山南Ｂ区
１号墳盛土断面◀



東山南Ｂ区、１号住居址土器出土状況



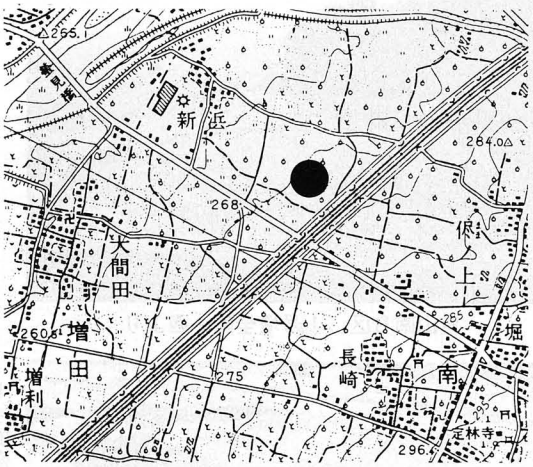
東山南Ｂ区、１号墳出土遺物



◀東山南Ｂ区、全体図

10. 身洗沢遺跡（みあらいざわ）

所　在　地　東八代郡八代町南字身洗沢4632番地他
事　業　名　県道石橋・石和線建設
調査期間　1989年６月12日～11月24日
調査面積　1,690㎡
担　当　者　中山誠二、今福利恵



身洗沢遺跡位置図

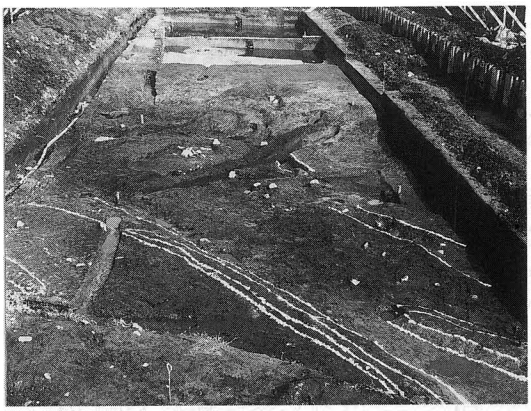
甲府盆地の南東部に位置する御坂山地から北に展開する浅川・天川扇状地の扇端部に本遺跡は立地し、標高は約269ｍを測る。調査区域は、幅約12ｍで約140ｍの長さにわたって扇状地を横断するもので、地形は複数の微高地とその後背湿地により複雑に構成される。

今回の調査の結果、弥生時代後期から古墳時代初頭を中心とする遺構が発見されたほか、縄文時代や平安時代の土器がわずかにみられ、また近世においての水田施設が検出された。

弥生時代の遺構は、住居址２軒と水田址が調査区の北側で確認された。いずれも土器片などから弥生時代後期に属するものと考えられる。住居址は微高地上に立地し、その南側の微高地に挟まれた幅約10ｍの谷部に水田が営まれている。水田は洪水砂を挟んで、上下に４層みられる。上層の２枚の水田址は、断面により確認したが、遺存状態がわるく畦畔を検出できなかった。中層の水田址は、足跡を検出することができ、また植物遺体を多量に含む部分が帯状に見られ、これを断面により畦畔と判断した。もっとも保存状態が良く、畦畔が検出できたのは最下層の水田址で、３本の畦畔と溝が確認された。畦畔は谷の方向に沿ってつくられ、谷を横切る方向の畦畔は認められない。面としては北へ向かって階段状に低くなっていく。

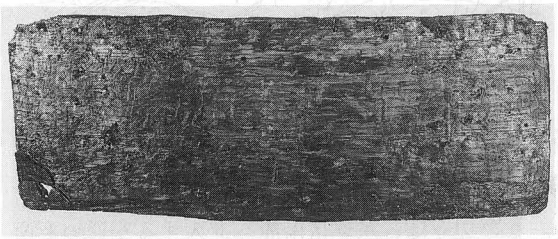
この時代の遺物は、とくに谷部の水田址に集中してみられ、土器片の他に木製品が多く発見された。木製品は保存状態が良く、クワやその未製品、ヒザエクワ等の農耕具の他、剣や漆塗の櫛、さらに板材に穴をあけて桜の皮で綴じた用途不明のものなどがみられる。またモモやクルミ等の種子類や流木などの自然遺物も多くみられ、水田が廃棄された後にゴミ捨場として利用されていたと思われる。水田址の下層からも多くの流木や立木、種子などの自然遺物の他、土器片も検出された。

古墳時代の遺構は、小竪穴状遺構１軒と溝状遺構そして柱穴群が、調査区の南側の微高地上で確認された。いずれも古墳時代初頭に属する。小竪穴状遺構は径３ｍ程で、火災を受けており、その構築材が倒れこんだ状態で残されていた。溝状遺構は、幅50cmの溝の中に多量の土器片が敷き詰められていた。柱穴群は主に調査区の中央部付近に集中してみられるが、その並び方は不規則で何らかの建物址とは判断しがたい。遺物は甕や壺、器台形土器などのほか磨製石鏃がみられ、調査区の南側に集中しており、さらに自然堤防をはさんだ反対側の、弥生時代の水田址のあった谷部にもみられる。



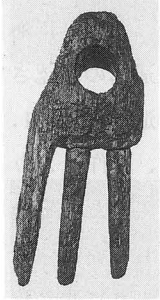
弥生時代後期の水田面と畦畔

水田面の遺物出土状況

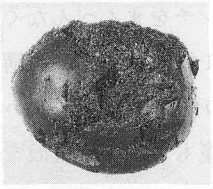


エブリ未製品

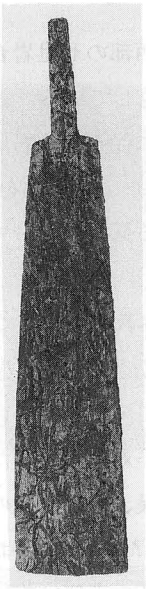
▲剣形木製品



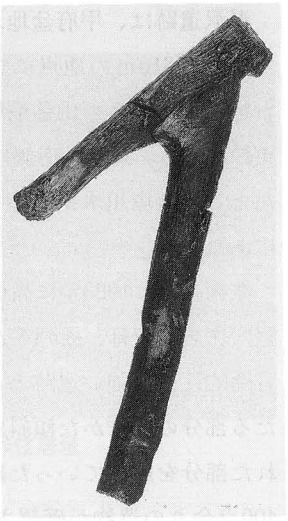
◀マタグワ



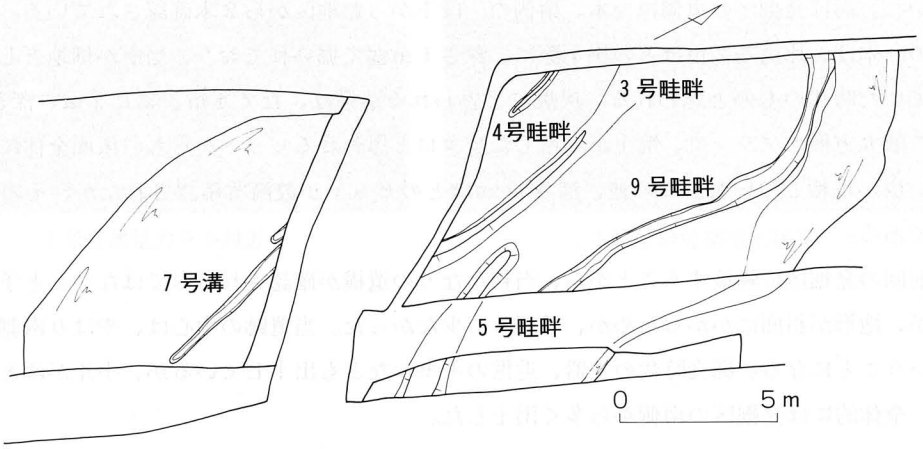
▲ヒョウタン



▶組合せクワの未製品



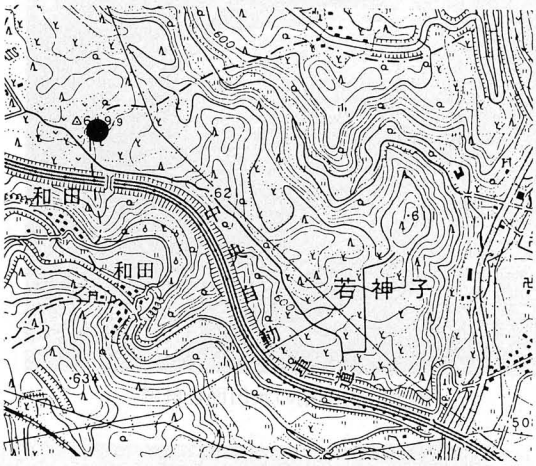
組合せ式クワの柄



水　田　址

11. 湯沢(ゆざわ)遺跡

所　在　地　北巨摩郡高根町下黒沢字湯沢
　　3054－3
事　業　名　峡北中核工業団地内植栽事業
調査期間　1989年7月31日～10月26日
調査面積　5,000㎡
担　当　者　保坂康夫、浅利司

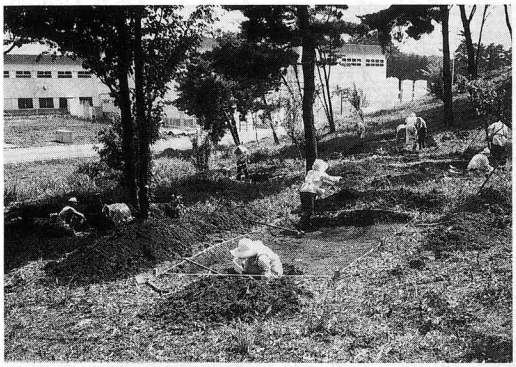


湯沢遺跡位置図

湯沢遺跡は、甲府盆地北西部の七里岩台地上、標高610mの地点に立地している。この台地は、八ヶ岳の山体崩壊に伴う韮崎岩屑流が舌状に流れだして形成されており、本遺跡はこの東縁にある。遺跡の南側には、この台地を深く削りこんで鳩川が流れている。台地から一段下がったところは塩川水系がつくる低地となっている。この辺りは、八ヶ岳南麓へ進入する交通の要所にあたる。

発掘調査は1983年に高根町教育委員会により一度行われており、平安時代の掘立柱建物址15棟、竪穴住居址27軒、柵列等が確認された。八ヶ岳南麓の一般的な集落とは様相を異にすることから、官衙的性格の強い遺跡として注目されている。今回の発掘は、前回の発掘区の背後（北側）にあたる部分の緩やかな傾斜地が対象であった。トレンチをまんべんなく入れ、遺物・遺構の確認された部分を広げていった結果、平安時代の住居址1軒と時期不明の溝3本、炭焼き遺構1基、1,400点余りの遺物が確認された。住居址は発掘区の南縁にあり、竈から南側半分は、耕作によりすでに湮滅していた。住居址の東側に設けられた竈も、一部の施設を残して崩壊していた。そのため遺物の遺存状況は悪く、甕、坏等の一部が出土したにすぎない。しかし、残存していた住居の北半から、鎌の刃部が完形で出土したのが注目される。壁ぎわの周溝に置かれたように残されていた。溝は発掘区の東側に一本、南側の一段下がった地区から2本確認されている。南側のうちの一本は、比高差2mほどの崖下際に、深さ1m弱で掘られており、当所が畑地として利用されていた時代のものと思われる。炭焼坑と思われる遺構は、たて4m、よこ2m、深さ0.5mほどの隅丸方形のプランで、焼土が堆積した焚き口と思われるピットをもち、床面全体におびただしい炭が堆積していた。この他、深さ30cmほどのピットが数箇所確認されたが、その性格は不明である。

前回の発掘区に隣接することから、当初かなりの遺構が確認されるのではないかと予想していたが、地形が斜面にかかるためか、予想外に少なかった。当遺跡の中心は、やはり南側の平坦地ということになる。縄文時代の土器、近世のキセルなども出土しているが、小片がほとんどである。全体的には発掘区の南側から多く出土した。



発掘調査風景

遺物出土状況

炭焼遺構

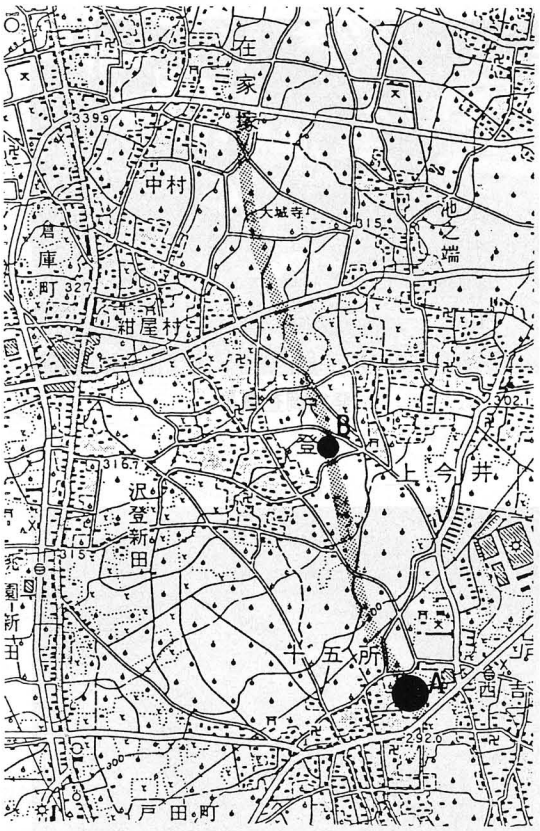
1号住居址

1号住居址カマド付近

1号住居址鎌出土状況

12. 甲西（こうさい）バイパス地内試掘調査

調査対象地域　中巨摩郡白根町在家塚～櫛形町十五所
事　業　名　甲西バイパス建設計画
調 査 期 間　1989年11月６日～12月27日
調 査 面 積　90,000㎡
担　当　者　丸山哲也、吉岡弘樹



甲西バイパス建設予定路線位置図
A　十五所遺跡　　B七ツ内遺跡

甲府盆地西縁を南北に走る国道52号線の東側にほぼ平行に、甲西バイパス建設予定地があり、今回、平成２年度からの本調査対象地域を把握するための試掘調査を行った。なお、本年度試掘調査分は、中巨摩郡白根町在家塚より櫛形町吉田に至る約２kmの区間である。現況はそのほとんどが果樹栽培地と荒地となっている。

トレンチの設定は、用地買収が70％終了及び完了した場合のみとし、約20m間隔に２ｍ×２ｍのトレンチを106ヵ所設定した。この結果、白根町内については砂礫層が1.5m～２ｍ以上の堆積をみせており、旧河川の氾濫原であったことが判明し、遺構、遺物は一切検出されなかった。また、櫛形町部分では、七ツ内遺跡、十五所遺跡の存在が明らかになった。

（七ツ内遺跡）

試掘調査と平行して行われていた地中レーダーによる調査から当地域に遺構らしい反応が確認されたため、トレンチを密にかつ大規模に設置したところ、１・２号トレンチの黄褐色砂質粘土層上面（深さ約1.7m）より、幅約１ｍの溝状遺構を検出した。形状は、１号トレンチより２号トレンチへ続く偏平な弧状を呈することが想定できる。遺物は溝状遺構覆土中より灯明皿１点が出土した。

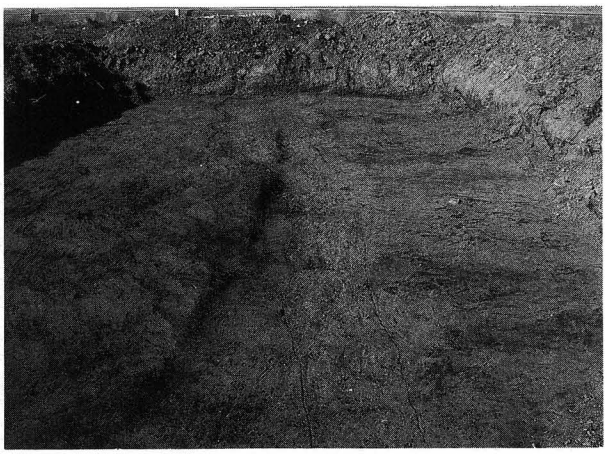
（十五所遺跡）

当遺跡の存在は、以前より知られており、主部は路線用地より、北東方向にあたる。地中レーダーによる調査で他地区とは違った安定した土層が認められ、各所に遺構らしい形跡がうかがえられたため、トレンチを大規模にかつ密に設定した。

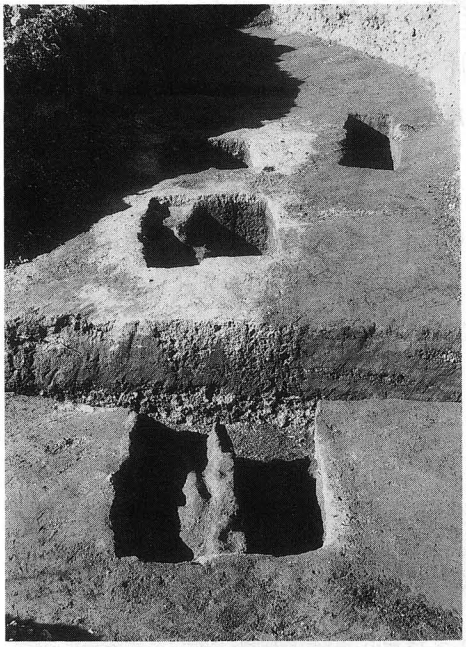
遺跡主部に接近する１～３号トレンチからは、Ｓ字状口縁台付甕形土器を含む古墳時代の土器片が出土した。特に３号トレンチでの出土量は著しく多く、住居址の可能性を高めている。

４号トレンチからは、南北方向に幅約80cmの溝状遺構が検出された。

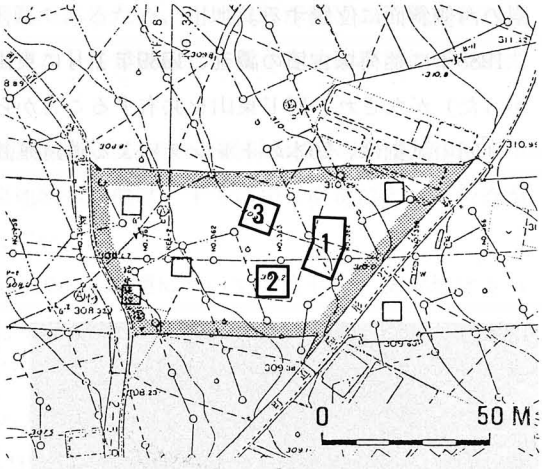
５号トレンチでは、１～３号トレンチと同様に古墳時代の土器片が多量に出土した。



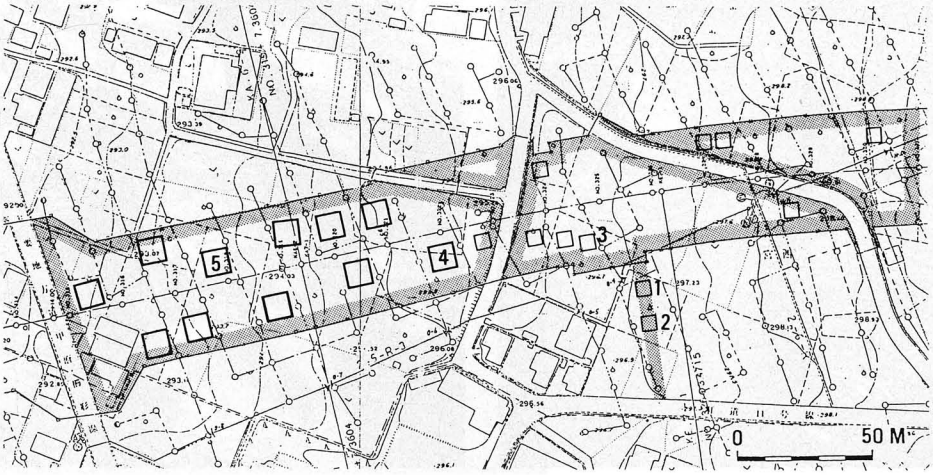
十五所遺跡溝状遺跡検出状況



七ツ内遺跡溝状遺構



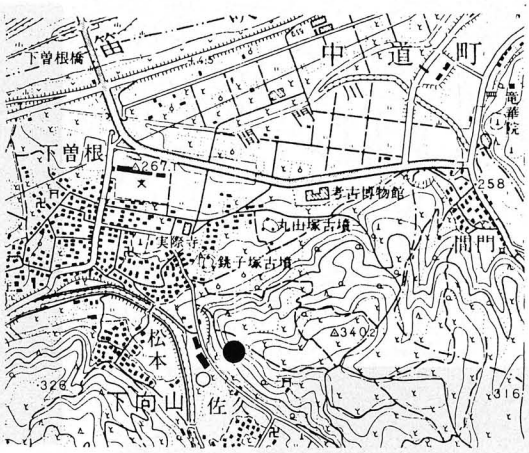
七ツ内遺跡範囲図



十五所遺跡範囲図

13. 風土記の丘キャンプ場予定地試掘調査

所　在　地　東八代郡中道町下向山字東山
事　業　名　甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園
　　キャンプ場建設事業
調査期間　1989年10月17日～10月27日
調査面積　10,000㎡
担　当　者　末木健、山本茂樹



風土記の丘キャンプ場遺跡位置図

キャンプ場予定地は、甲府盆地南東部の曾根丘陵に建設された風土記の丘・曾根丘陵公園の西側斜面に位置する。

1988年に稲荷塚古墳の調査、1989年１月に東山南遺跡Ｃ地区の調査（遺構・遺物は発見されなかった）がなされ、同じ東山を共有することから試掘調査が行われた。

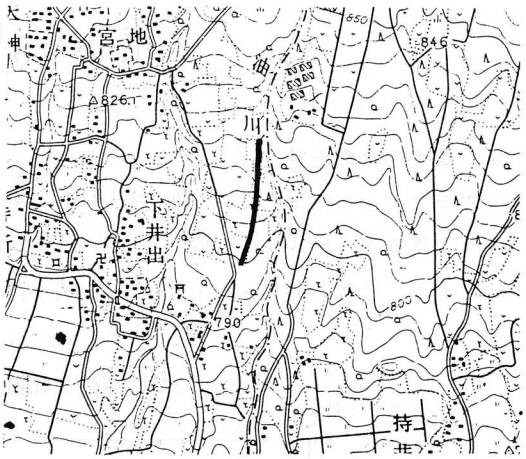
今回の試掘は、26本のトレンチによる遺跡確認調査を実施したが遺構・遺物は発見できなかった。

14号トレンチ試掘状況

22号トレンチ試掘状況

14. 八ヶ岳東南麓遺跡ほか分布調査

所　在　地　北巨摩郡大泉村西井出
事　業　名　県道（八ヶ岳公園線）および八ヶ岳広域農道建設計画
調査期間　1989年12月13日～12月20日
調査面積　4,000㎡
担　当　者　山本茂樹、森原明廣



八ヶ岳東南麓ほか分布調査位置図

県道および広域農道建設計画が八ヶ岳東南麓で進められている。建設計画の対象は山林地域が主体であり、表面採集による分布調査が困難であるため、用地買収が終了した場所から年次計画で試掘調査を続けている。今年度は、県道（八ヶ岳公園線）建設予定地の該当地域の試掘調査を主体として実施した。

調査対象としたのは、北巨摩郡大泉村西井出地内の油川右岸の南緩斜面である。標高は800m前後であり、現在は山林となっている。調査対象地域の南側は、すでに甲ッ原遺跡として調査が行われ、縄文時代前期・中期の集落址が検出されている。

調査は1989年12月より始め、長さ約400m、幅約10mの範囲について実施した。試掘坑は5m×1mで計51ヵ所を設定し、地山ローム層まで掘り下げることを基本とした。

調査の結果、北側部分の約1,000㎡については、表土下20～30cmでローム層に達し、遺物・遺構は検出されなかった。本調査の必要はないものと判断される。南側部分の約3,000㎡については、表土下20cm程で黒色土あるいは黒褐色土が見られ、この土層中に縄文時代前期・中期に属する土器片を包含する。また、一部の試掘坑では住居址・土壙等のプランも確認されている。おそらく、南接する甲ッ原遺跡と連続するものと考えられ、本調査が必要と判断される。

試　掘　風　景

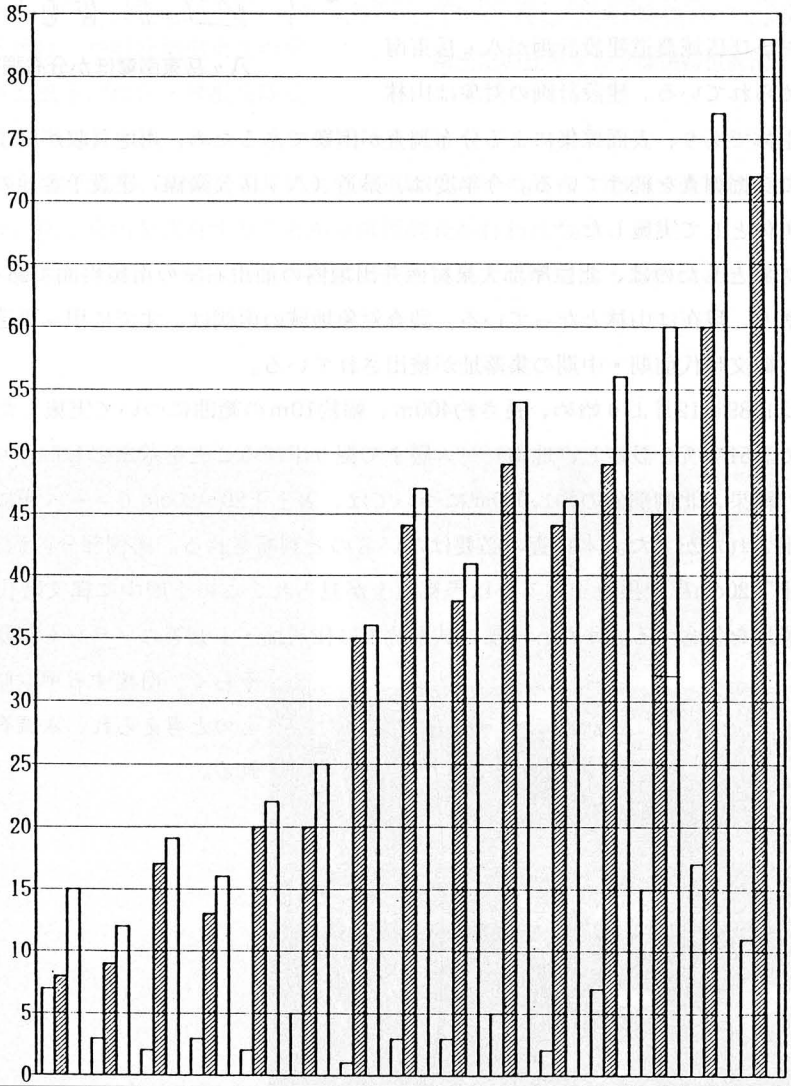
III　県内の概況

1．調査の件数と状況

グラフに示したように、今年度は県内で83件の調査が行われている。中央自動車道に伴う調査が本格化した1979年度以降発掘調査は増え続けており、今年は、調査件数が80件を上回る勢いである。件数の増加とともに、1件あたりの調査面積も大きくなっている。これにはいろい

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移

（単位：件）



年	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
学術調査	7	3	2	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11
緊急調査	8	9	17	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72
合　計	15	12	19	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83

ろな要因があるが、たとえば圃場整備による遺跡の調査は、それまでの点あるいは線の調査から面の調査へと規模を変え、一つの集落をそっくり調査する状況となった。また、最近では都心の地価高騰の煽りを受け、広範な土地を求めて地方に進出する企業が多く、そのための大規模造成が各地で行われ、当然のことながらこれも大規模調査の原因となっている。いま、県内で最も関心を集めているリニア実験線や中部横断自動車道の建設にかかわっての大規模調査は来年度から本格化することになっているし、さらにこれらを見越したゴルフ場造成、リゾート開発など地元よりも都会優先の開発が引っ切りなしに行われている。都心との時間的距離がますます短縮される方向にある現在、こういった様々な開発は当分止みそうにない。

このような状況で、県でも担当職員の増員をはかっているが、市町村では担当職員を配置していないところが多く、また、配置しても１人だけというところが殆どである。大規模開発には対応しきれないのが現状であり、設計変更や調査期間の延長ができる場合はまだしも、期限などの問題で開発側とトラブルが起こることは充分予想される。担当職員の増員とともに、新たな広域埋蔵文化財センターの設立など、組織的協力体制を考えなければならない時期にきていると言えよう。

２．県内の主な発掘調査

例年、話題を集めた遺跡について遺跡調査発表会で一般向けの報告を行っていることは既に述べたが、時間の制約上、１回に３ないし４遺跡に限られており、話題に上ったものの報告もれとなったいくつかの遺跡について概要を述べることとする。

まず、韮崎市宮の前遺跡では、縄文時代前期～平安時代にかけての住居址70軒、掘立柱建物跡10棟、合口甕棺１基、土坑などが確認された。平安時代の住居址のうち、火災住居址の灰からは稲のプラントオパールが確認され、屋根が稲藁であったことが実証された。また、円面硯や県内初の奈良三彩蓋など役所跡との関係を連想させる遺物が出土しており興味深い。また、平安時代の水田跡も確認され、畦畔や人・牛などの足跡も確認された。

東八代郡石和町松本塚の越遺跡は店舗建設に伴う事前調査で、古墳時代～平安時代にかけての住居址105軒、掘立柱建物跡４棟などが確認された。住居址は古墳時代後期35軒、奈良時代８軒、平安時代57軒などとなっている。また遺構には伴わないものの、県内では非常に類例の少ない古墳時代中期の一括資料が出土している。石和町内の笛吹川右岸は明治期の水害により、遺跡は流失していると思われがちであったが、むしろ厚い砂の堆積により良好な状態で保存されていることが明らかになった。このことは同時に砂層に覆われた他の遺跡の存在も予想させるものである。

遺跡調査発表会でも一部の報告が行われたが、甲府市武田氏館跡では、その後の調査で館の西曲輪南門に「馬出し」土塁を確認した。この土塁下には今までその存在を知られることのなかった堀が新たに確認され、内部から漆塗りの椀と完全な状態の馬の全身骨格が出土した。馬の全身骨格の発掘は全国的にも殆ど例がないものである。出土状況から16世紀前半と思われ、オスで５才～10才と推定されている。歯の状態などから一般の農耕馬でなく、騎馬の可能性が

強い。

塩山市黒川金山遺跡の調査に啓発され、２つの遺跡の調査が行われた。西八代郡下部町湯之奥中山金山遺跡は、考古学・民俗学・文献史学・鉱山学などの視点から金山を多角的に分析しようと、今年度から３カ年の予定で発掘調査が開始された。本年度はその第１年次。８月４日～31日まで調査が行われ、精練場のテラス・炭窯や石臼、あるいは生活用具などが出土した。金坑、居住域、作業域などからなる「鉱山町」が形成されていたことが明らかになった。また、文献調査では当地域の統治者であった穴山氏の古文書だけしかみられないことから、湯之奥鉱山と武田氏との拘わりは薄く、湯之奥金山が穴山氏の所有であった可能性が指摘されている。一方、塩山市乙木田遺跡は、縄文時代中期の遺跡として知られているが、遺跡の北約500ｍに水晶山と呼ばれる水晶原産地があり、以前に水晶の原石とともに石器も採集されていることから水晶加工場が存在するのではないか、という想定のもと本年９月に調査が行われた。今回の調査は僅か130㎡あまりの面積のため、加工場の全容を明らかにするまでには至っていないが、トレンチの一つからは水晶の原石と多量の破片とともに上部が平滑になった台石が出土しており、加工場であった可能性が極めて強い。また、近接のトレンチでは住居址も確認されている。周辺の遺跡への水晶の供給など、縄文時代の交易を探る貴重な調査と言えるものである。

以上、雑駁ながら今年度調査された主な遺跡の概要を述べたが、とかく小規模な遺跡調査の場合はマスコミなどに取り上げられることもなく、ひそかに消滅して行くものが多い。大規模なものは目立つだけに、十分な調査体制を取ることも可能であるが、小規模なものについては、一歩間違えば調査が不十分なまま遺跡が消滅することにもなりかねない。今、埋蔵文化財センターとしての指導的役割が十分発揮されなければならない時期であると言えよう。

1989年度発掘調査一覧表No.1

番号	遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	調査期間	時代	面積(㎡)
1	立石遺跡	東八代郡中道町下向山中原	中道町教育委員会	建物建設	89.4.4～89.4.7	縄文	1,552
2	東原遺跡	東八代郡中道町右左口東原1408他	中道町教育委員会	土砂採取	89.6.19～89.6.20	弥生・古墳	3,430
3	塩川遺跡	北巨摩郡須玉町塩川	山梨県教育委員会	ダム建設	89.5.5～89.9.30	縄文・中・近世	7.600
4	中込遺跡	北巨摩郡長坂町大井ヶ森字中込	山梨県教育委員会	農業関連	89.6.5～89.7.31	縄文	970
5	千野木II遺跡	北巨摩郡明野村上手3806	明野村教育委員会	県営圃場整備	89.5.15～89.5.25	平安	200
6	山崎第4遺跡	北巨摩郡大泉村西井出	大泉村教育委員会	住宅建設	89.4.17～89.6.30	縄文	3,000
7	獅子之前遺跡	塩山市千野字獅子之前	山梨県教育委員会	道路建設	89.5.8～90.3.31	縄文・平安	3,000
8	東山南遺跡	東八代郡中道町下向山字東山	山梨県教育委員会	公園造成	89.5.8～89.6.7	弥生・古墳	8,000
9	神東町遺跡	東山梨郡春日居町寺本173－1他	春日居町教育委員会	町立郷土館建設	88.10.11～89.3.31	古墳・奈良・近世	1,000
10	大輪寺東遺跡	韮崎市旭町上条北割字宮下3227他	山梨県教育委員会	道路建設	89.5.15～89.8.31	中世	2,080
11	松本塚ノ越遺跡	東八代郡石和町松本字塚ノ越	石和町遺跡調査会	店舗・駐車場建設	89.4.3～89.5.31	古墳～平安	2,300
12	持井遺跡	北巨摩郡高根町地内	高根町教育委員会	県営圃場整備	89.6.1～90.3.31	縄文・平安	8,000
13	八ツ牛遺跡	北巨摩郡高根町地内	高根町教育委員会	県営圃場整備	89.6.1～90.3.31	縄文・平安	1,000
14	大明神遺跡	北巨摩郡高根町地内	高根町教育委員会	県営圃場整備	89.6.1～90.3.31	縄文	3,000
15	薬師堂遺跡	北巨摩郡高根町地内	高根町教育委員会	県営圃場整備	89.6.1～90.3.31	縄文・平安	10,000
16	丘の公園第1遺跡	北巨摩郡高根町地内	高根町教育委員会	道路建設	89.6.1～90.3.31	旧石器・縄文	500
17	身洗沢遺跡	東八代郡八代町南小字身洗沢	山梨県教育委員会	道路建設	89.6.1～90.3.31	弥生・古墳	1,690
18	池の下遺跡	北巨摩郡明野村浅尾3171他	明野村教育委員会	県営圃場整備	89.7.3～89.7.20	平安	100
19	中村道祖神遺跡	北巨摩郡明野村浅尾178他	明野村教育委員会	県営圃場整備	89.7.21～89.8.23	平安	1,000
20	踊石II遺跡	北巨摩郡明野村浅尾1567他	明野村教育委員会	県営圃場整備	89.6.20～89.6.30	縄文	500
21	北後田遺跡	韮崎市藤井町坂井字後田他	韮崎市教育委員会	県営圃場整備	89.5.29～90.3.31	縄文・平安	5,000
22	松林遺跡	東八代郡中道町中畑字松林803－1他	中道町教育委員会	土砂採取	89.6.19～89.6.21	縄文・古墳	1,802
23	宮之上遺跡	東山梨郡勝沼町勝沼字宮之上	勝沼町教育委員会	公園造成	89.6.30～89.9.30	縄文	2,400
24	柳坪遺跡	北巨摩郡須玉町穴平	須玉町教育委員会	県営圃場整備	89.6.21～89.12.20	縄文・平安・中世	11,000
25	黒川金山遺跡	塩山市上萩原萩原分区4783－2	黒川金山遺跡研究会	学術研究	89.7.23～89.8.10	中世	20
26	立石南遺跡	東八代郡境川村小黒坂434－2	境川村教育委員会	貯水地建設	89.7.1～89.7.10	縄文	310
27	寺野・城屋敷遺跡	南都留郡西桂町下暮地大竹	西桂町教育委員会	ダム建設	89.7.1～89.7.31	縄文・中・近世	2,762
28	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取諏訪原地内	明野村教育委員会	道路建設	89.8.10～89.8.31	縄文	260
29	大和田第3遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸地内	大泉村教育委員会	県営圃場整備	89.7.12～89.8.31	縄文	8,200
30	湯沢遺跡	北巨摩郡高根町下黒沢字湯沢	山梨県教育委員会	植栽工事	89.7.17～89.10.31	平安	5,000
31	間の田遺跡	東八代郡境川村小黒坂字間の田	境川村教育委員会	住宅建設	89.8.10～89.8.15	縄文・古墳	560
32	中山金山遺跡	西八代郡下部町湯の奥中山430	湯ノ奥金山遺跡学術調査会	学術研究	89.8.1～89.9.30	中世・近世	11,712
33	宮の下遺跡	東八代郡豊富村浅利宮の下	豊富村教育委員会	土砂採取	89.8.21～89.8.31	縄文	1,586
34	付山南遺跡	東八代郡豊富村関原付山1957	豊富村教育委員会	土砂採取	89.8.28～89.8.31	縄文	908
35	橋立遺跡	東八代郡一宮町東原字西田町	橋立遺跡調査団	店舗新築	89.8.1～89.8.3	平安	2,800
36	乙木田遺跡	塩山市下竹森1623他	山梨学院大学考古学研究会	学術研究	89.9.1～89.9.10	縄文	40
37	前山遺跡	東八代郡中道町下向山字前山	中道町教育委員会	住宅建設	89.9.1～89.9.7	縄文・古墳	617
38	諏訪の前南遺跡	東八代郡中道町中畑字諏訪の前	中道町教育委員会	工場建設	89.9.8～89.10.9	縄文・古墳	5,248
39	神田遺跡	北巨摩郡小淵沢町地内	小淵沢町教育委員会	県営圃場整備	89.8.17～90.3.31	縄文・平安	4,000
40	千野木I遺跡	北巨摩郡明野村上手4001	明野村教育委員会	県営圃場整備	89.5.15～89.5.25	縄文	400
41	原腰遺跡	中巨摩郡敷島町島上条字原腰2276	敷島町教育委員会	宅地造成	89.8.16～89.9.30	弥生～中世	3,000
42	無名墳	東八代郡御坂町井之上字間仲1463	御坂町教育委員会	遺跡整備	89.9.25～89.10.2	古墳	1,334

1989年度発掘調査一覧表No. 2

番号	遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	調査期間	時代	面積(㎡)
43	鞍掛遺跡	東八代郡一宮町末木字末木田	一宮町教育委員会	テニスコート建設	89.9.8～89.9.30	古墳～平安	300
44	神東町遺跡	東山梨郡春日居町寺本136	春日居町教育委員会	役場新庁舎建設	89.9.4～89.9.6	古墳・奈良・近世	250
45	大月遺跡	大月市大月２丁目10－２	大月市教育委員会	範囲確認	89.9.21～89.9.30	縄文・平安	510
46	伝ノ下遺跡	東八代郡八代町南2598－1他	八代町教育委員会	建物建設	89.9.20～89.9.30	縄文～古墳	64
47	吉田城山遺跡	富士吉田市上吉田字城山1269－1他	富士吉田市教育委員会	遺跡整備	89.9.25～90.3.31	中世	36
48	教来石民部館跡	北巨摩郡白州町鳥原字上小用他	白州町教育委員会	県営圃場整備	89.9.18～89.10.28	縄文・平安・中世	800
49	前山遺跡	東八代郡中道町下向山字三畑	中道町教育委員会	住宅建設	89.9.25～89.10.10	縄文・古墳	446
50	新屋原遺跡	北都留郡上野原町桐原字新屋原	上野原町埋蔵文化財調査会	ゴルフ場造成	89.10.2～90.1.31	縄文	4,000
51	筑前原北遺跡	東八代郡一宮町金田字南畑町	一宮町教育委員会	宅地造成	89.9.1～89.10.31	弥生・平安	1,000
52	甲斐国分尼寺跡北遺跡	東八代郡一宮町東原字後地	一宮町教育委員会	店舗建設	89.10.2～89.11.30	奈良～中世	1,000
53	甲斐国分寺跡	東八代郡一宮町東原590－1他	一宮町教育委員会	学術研究	89.10.23～89.12.8	奈良～中世	480
54	諏訪前中遺跡	東八代郡境川村藤垈字諏訪前	境川村教育委員会	建物建設	89.11.10～89.11.14	縄文・古墳	348
55	無名墳	東八代郡御坂町下黒駒字北長田	御坂町教育委員会	工場建設	89.11.1～89.12.25	古墳	3,046
56	堤南遺跡	東八代郡石和町四日市場大切町	石和町遺跡調査会	開発事業	89.10.26～89.10.27	平安	1,800
57	長田口遺跡	中巨摩郡櫛形町平岡字長田口	山梨県教育委員会	道路建設	89.10.23～89.12.31	縄文～古墳	1,700
58	甲ッ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字大林	山梨県教育委員会	道路建設	89.11.1～89.12.25	縄文	1,000
59	鶴辺遺跡	東八代郡八代町南4810他	八代町教育委員会	工場用地造成	89.11.6～89.11.24	弥生～平安	70
60	下横屋遺跡	韮崎市藤井町北下条字下横屋	韮崎市教育委員会	住宅建設	89.11.1～89.12.28	奈良・平安	2,000
61	下向山遺跡	東八代郡中道町下向山字東原	中道町教育委員会	土砂採取	89.11.20～89.11.24	縄文～中世	2,472
62	川田窯跡	甲府市川田町245－２	山梨県教育委員会	学術研究	89.11.20～89.11.30	古墳	20
63	宇津谷諏訪神社窯跡	北巨摩郡双葉町宇津谷字藤塚	山梨県教育委員会	学術研究	89.11.13～89.11.30	近世	100
64	仁王屋敷遺跡	北巨摩郡高根町地内	高根町教育委員会	県営圃場整備	89.12.1～90.3.31	中世	5,000
65	上野原小学校遺跡	北都留郡上野原町上野原3454	上野原町教育委員会	学校建設	89.11.17～89.11.25	縄文	100
66	勝山城跡	都留市川棚字城山922,993ほか	都留市教育委員会	学術調査	89.12.15～90.2.20	中世・近世	1,835
67	八乙女北遺跡	東八代郡境川村藤垈3402,3403	境川村教育委員会	住宅建設	90.1.8～90.1.12	縄文・古墳	753
68	向田遺跡	東八代郡御坂町大野寺字向田960	御坂町教育委員会	スポーツ広場建設	90.1.25～90.2.20	縄文	39,939
69	神東町遺跡	東山梨郡春日居町寺本字道万町	春日居町教育委員会	下水道整備	90.1.8～90.3.31	古墳～平安	111
70	十五所遺跡（試掘）	中巨摩郡櫛形町十五所字村東174他	山梨県教育委員会	道路建設	89.11.1～89.12.27	古墳	13,000
71	立石南遺跡	東八代郡境川村小黒坂字大蔵519	境川村教育委員会	住宅建設	90.1.29～90.2.9	縄文	815
72	一条氏館跡	西八代郡三珠町上野3205	三珠町教育委員会	公衆便所建設	90.2.4～90.6.14	弥生・古墳・中世	32
73	小森遺跡	北巨摩郡明野村小笠原1741他	明野村教育委員会	工場建設	90.2.26～90.3.26	縄文・平安	2,564
74	国府遺跡	東山梨郡春日居町国府字大中寺他	春日居町教育委員会	学術調査	90.2.1～90.3.31	奈良・平安	500
75	下向山遺跡	東八代郡中道町下向山植木原4169	中道町教育委員会	土砂採取	90.2.15～90.3.10	縄文・古墳・中世	945
76	蟹坂遺跡	北巨摩郡須玉町穴平字蟹坂1060他	須玉町教育委員会	工業団地造成	90.2.1～90.3.31	縄文・平安・中世	5,000
77	八乙女北遺跡	東八代郡境川村藤垈字八乙女3400	境川村教育委員会	住宅建設・土砂採取	90.2.13～90.2.21	縄文・古墳	800
78	金の尾遺跡	中巨摩郡敷島町大下条字金の尾	敷島町教育委員会	マンション建設	90.3.10～90.3.11	縄文・弥生	1,673
79	八乙女北遺跡	東八代郡境川村藤垈字八乙女3401	境川村教育委員会	住宅建設・土砂採取	90.3.19～90.3.31	縄文・古墳	548
80	上堀遺跡	東八代郡石和町小石和字上堀	石和町遺跡調査会	住宅建設	90.3.12～90.3.16	縄文・平安	2,432
81	宮下・龍光寺遺跡	東八代郡御坂町大野寺字宮下	御坂町教育委員会	スポーツ広場造成	90.3.6～90.5.31	奈良・平安・中世・近世	2,360
82	向田遺跡	東八代郡御坂町大野寺字向田	御坂町教育委員会	スポーツ広場造成	90.3.6～90.5.31	縄文	450
83	御屋敷遺跡	西八代郡市川大門町字御屋敷	市川大門町教育委員会	学術調査	90.3.19～90.3.31	奈良・平安・中世	80

1990年3月31日　印　刷
1990年3月31日　発　行

年　報　6

平成元年度

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
印刷所　株式会社　少　國　民　社